令和３年度　教育研究活動の現状と課題

― 自己点検・評価　報告書 ―

令和４年４月

常磐会学園大学

は じ め に

この２年余り世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の感染拡大という事態の中で、日常的な教育活動が困難に見舞われる状況が続いています。常磐会学園大学においてもいろいろな対策を講じながら教育活動を進めてまいりました。現在も新型コロナウイルス感染症の勢いは止むことなく続いていますが、何より学生・教職員の安全・安心を第一に、教育活動と感染防止策の両立に努めてまいりました。

このような状況にあっても、教職員はもとより、学生自ら自己研鑽に励み、研究を進めております。この度、平成 14 年の創刊以来本年度で 19 回目となる本学の教育・研究実践のまとめを発行する運びとなりました。本報告書ではタイトルを「教育研究活動の現状と課題」とし、大学における自己点検・自己評価の内容・方法として、「教育研究活動の計画」「教員の研究分野・内容・実績」「授業評価」「キャンパスライフの調査」「FD 活動」のそれぞれ５つのジャンルからまとめています。

例年、教職員が一同に会して教育研究活動についての協議会を年３回開催しています。しかし、本年度は新型コロナウイルス感染症対策のために、書面会議やオンライン会議での情報交換に切り替えて行っています。

「教育研究活動の計画」では、大学の教育活動・研究活動のより一層の充実に向けて、各部署において達成目標を定め、具体的な取組みや進捗状況を報告し、それぞれの達成状況や課題について意見交換を行ない、次年度の課題がまとめられています。

「教員の研究分野・内容・実績」では、専任教員の校務分掌や研究活動の具体的な取り組みを紹介し、加えて専門領域や研究実績が詳細に示されています。

「授業評価」では、教員自身の授業の向上及び授業の改善に資するため、専任・兼任教員の各授業に対して、学生による授業アンケートを実施しています。このデータ結果をもとに授業改善が図られ、より良い授業が展開されるものと期待しています。

「キャンパスライフの調査」では、学生生活全般にわたってキャンパスライフの満足度を調査し、結果を公表しています。これにより、キャンパスの学修環境が向上し施設設備の充実が促進され、毎年学生の満足度が上がっています。

本書をご一読いただき、ご批判を賜りますようお願いいたします。

常磐会学園大学
学長　田端　矢一郎

目　　次

はじめに

Ⅰ　教育研究活動 …… 1

Ⅱ　教員の研究分野・内容・実績 …… 21

Ⅲ　授業評価 …… 45

Ⅳ　キャンパスライフの調査 …… 53

Ⅴ　FD・SD 活動 …… 65

おわりに …… 71

Ⅰ　教育研究活動

「教育研究活動」の取り組み

この章では本学の教育研究活動、特に校務分掌における各部署の組織的な活動について報告する。

報告するのは、学長を中心とした「大学経営」、本学専任教員からなる「教務部」「学生部」「研究部」「入試部」「進路・実習指導部」、学長より委嘱された委員からなる「人権教育推進委員会」、学生の様々な活動を支援するために教職員で構成された「自己点検」「学生支援」「地域貢献」「現職支援」「課題推進」「図書館運営委員会」、事務局の「総務課」「教学課」「会計課」「入試広報課」の 17 部署である。

表には、今年度の目標、その目標達成のための具体的な取り組み、そして 1 年間での進捗状況、さらにそれに対する各部署の達成度の自己評価、最後に次年度の活動における課題がまとめられている。達成度は「A」「B」「C」の 3 段階で自己評価しており、それぞれ「目標以上に達成できた」「目標を達成できた」「目標達成に至らなかった」となっている。また、各部署の活動は必ずしも単年度で終了する活動とは限らず、達成度の評価が「C」にとどまっている活動もある。なお、そのような取り組みについては、次年度以降「A、B」に到達できるように継続して活動することとしている。

また、本学では各部署の年間計画や活動の進行状況について情報を共有し、その活動の進行状況や結果等について意見を交換する機会として「教育研究活動の計画全体報告会」を年 3 回、原則として全教職員の出席で実施している。今年度は、年間計画を報告し合う第 1 回報告会を 5 月 17 日に行った。進行状況の中間発表を行う第 2 回報告会と年度を通じての達成状況を報告する第 3 回報告会は、コロナ感染蔓延防止の観点から全体で集合しての討議の形でなく資料配布と意見集約という形で、情報の共有と全学的な教育研究活動への意識の醸成に努めた。

01. 大学経営

令和３年度の目標 学生確保に重点を置き、教育環境の進展を進め、学生に修学の喜びを身につけさせ進路保障の充実を進める			
	具体的な取り組み	進捗状況	評価
①	【コロナ禍に対応した大学経営】 ・遠隔授業の充実よる授業の質の維持 ・学生の学修環境を整備するための支援 ・感染拡大による退学者を出さない	･コロナウイルス感染症対策を徹底するために、対面授業と遠隔授業を組み合わせた ･授業の質の維持を継続するための教育活動の工夫が見られた ･大学行事等の開催には感染対策の徹底を図るため内容や方法を工夫した	B
②	【積極的な学生募集】 ・学生確保に向けた、教職員が一体となったオープンキャンパス、入試相談会、高校訪問等の充実 ・学園組織の学生募集体制の強化	・オープンキャンパス、高校訪問等、教職員が連携を図り定員確保に向け、新たな試みを加味しながら募集活動を進めている ・教職員が一丸となって学生募集を推進するための情報共有を図っている	B
③	【授業力と学生満足度の向上】 ・学士力向上のための教育機能を強化 ・客観的で信頼できる指導と評価 ・学習評価の信頼度と妥当性の向上 ・少人数クラスの充実 ・個に応じた進路保障	・遠隔授業の経験から、今後の学修活動の広がりが見られた ・学習評価の信頼性と妥当性について、より質の高いものになるよう進めている ・学生の満足度を高めるために個々の学生に対して、きめ細かい支援を充実させる必要がある	B
④	【研究の充実】 ・研究体制の充実と支援 ・研究業績と担当授業科目の整合性 ・教職課程の質の保証・向上	・教員の研究向上を図るために、研究活動の支援を促進させ、研究論文の執筆を促している ・すべての開講科目と教職関係科目を見直しコアカリキュラムの整理を進めている	B
⑤	【３ポリシーの充実】 国際こども教育学部としての「アドミッションポリシー」「カリキュラムポリシー」「ディプロマポリシー」の実質化を進める	・３ポリシーを多面的に見直しているが、具体的な目標を関連付けていくことで、実質化を進めている	B
次年度の課題 学生確保を最重要課題とし、教育環境を充実させ学生の主体的な学修を促し、学生の満足度を向上させ、大学の質の向上を図るため更なる取り組みが必要である			

02. 教務部

令和３年度の目標 コロナ禍においてもすべての学生が円滑に学習ができるよう、履修・学習環境を整える。			
具体的な取り組み		進捗状況	評価
①	【オンライン授業への対応】 ・対面授業を基本とするが、オンラインでの授業実施にも対応できるよう環境の整備、研修の実施を進めていく	春期の 2 週目～10 週目、および秋期の 1 週目～3 週目にオンラインで授業を実施した オンライン授業を実施する環境について改めて調査を行い、昨年度からの改善の状況と今後の課題が明らかになった	A
②	【履修】 ・教学課と連携し、学生が円滑な履修をできるように、履修システムの改善をするとともに、履修指導を徹底していく	新年度に向けて、履修システムや履修指導の改善点洗い出しを進めていく	B
③	【基礎・専門演習】 ・大学での学習の基礎的な力を養うとともに、卒業論文執筆のために必要な指導を行うことができるよう、指導計画を見直していく	オンラインでの指導を含め、昨年度からの指導計画を見直した	A
④	【教育評価】 ・本学の学習評価の現状の分析を行い、学生が自らの学習を分析的にとらえる基準となるような学習評価を研究・提案していく 　また、遠隔授業の影響を検証していく必要がある	学習評価の現状について今年度の評価をまとめ分析している 遠隔授業については教員・学生への調査を行った	B
次年度の課題 トキガクポータルを活用した対面授業とオンライン授業の融合をさらに進め、学生の学習が円滑に進むようにしていく			

03. 学生部

令和３年度の目標 学生と学生の自主的活動への継続的な支援を研究室、学生相談室、カウンセラー、保健センター、教務部、事務室との連携の中で行う			
	具体的な取り組み	進捗状況	評価
①	【研究室指導】 ・各年次の実情に応じた指導を進める ・個人面接の充実と記録を整理していく ・遠隔授業においても学生との関わりを大切にし、連絡を密にする	・各年次の実情に応じた指導を進めた ・コロナ禍でも各教員が学期開始時・随時に、個人面接を実施し、個人ファイルに記録している ・教学課、教務部と連携し、各研究室で定期的に学生の様子の報告をお願いし集約した	B
②	【学生生活】 ・研究室・保健センターや学生相談室と連携し、学生支援の充実を図る。欠席が多い・配慮が必要な学生を把握し、支援する ・大学行事（英語スピーチコンテスト、ディベート大会）の実施形態を、新型コロナウイルスの状況に応じて検討する	・7 月及び 1 月に関係教職員で学生相談連絡会を開き、要支援学生への支援の方針を話し合ったり、情報を共有したりした。また、随時関係部署及び研究室担当教員と連携のうえ、配慮が必要な学生を把握し、支援している ・12 月 8 日(水)の英語スピーチコンテストを開催した。学内配信の精度に課題を残した。ディベートは、教務部企画で基礎演習時に研究室単位で実施した	B
③	【自治会活動】 ・遠隔授業に伴って、1 回生へのサポートを行う ・体制を整備し、自治会の自主的な活動を支援する ・大学祭などの行事を、コロナ禍においても学生の主体性を生かし、活性化する	・1 回生へのサポートはまだ不十分である ・体制の整備と自治会組織の見直しは課題である。現自治会役員の下回生増員を図り、少しずつ今後に繋げている ・10 月 23 日(土)にオンラインによる「トキガク祭を開催し、一部分を短期大学と共催した	B
④	【ボランティア】 ・地域ボランティア情報を状況に応じて提供し、参加を呼びかける ・ボランティア活動に対しての各種補助金の活用を、積極的に進める	・コロナ禍により制約はあるが、学生に対してボランティア情報を提供している	B
次年度の課題 ２年間自治会主催の行事が例年の形で開催できなかったので、次年度への継承をしっかりしなければならない			

04. 研究部

令和３年度の目標 研究活動の活性化と、授業内容向上への取り組みを進める			
具体的な取り組み		進捗状況	評価
①	【研究紀要】 ・投稿論文数の増加を図り、研究紀要を充実させる	・紀要には 13 本の投稿があり、うち査読論文は１本であった	B
②	【授業研究】 ・全教員による公開研究授業を実施するとともに、授業力向上のための研修を行い、FD に資する	・全教員による公開研究授業を実施し、コメント集をつくり研修資料として配布した コロナ感染の拡大により、２月予定の「授業力向上研修」は中止となった	B
③	【授業アンケート】 ・アンケートの実施に関して、教育の質の向上につながる具体的な方策を検討していく ・調査結果を分析し、その結果を報告するとともに授業改善に活用していく	・春期にアンケートを実施し、結果報告と分析を教授会で行った ・秋期は終盤が遠隔授業となったため、多くの科目でアンケートの実施ができなかった。	B
④	【キャンパスライフに関するアンケート】 ・アンケート結果を学生の満足度向上につながるよう調査結果を分析・報告し、教育活動の改善に活用していく	・ネットを活用したアンケートを今年度から実施したが、学生の回答数が減少した。 来年度は、回答数を増やす工夫が必要である 学生への結果報告と要望等への対応の説明については、速やかに行った	B
次年度の課題 研究活動の活性化を進めるとともに、授業力と授業内容向上のための効果的な取り組みを実施する			

05. 入試部

令和３年度の目標

入試広報課および関係部署と連携しながら広報活動を強化し、特に年内入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）の受験者増に重点を置き、来年度入学者の定員確保を図る

	具体的な取り組み	進捗状況	評価
①	【入試選考】 ・総合型選抜においてエントリー制を導入し、再編した実施区分を円滑に実施する ・指定校推薦基準を見直し、受験者増を図る ・すべての入試選考を適正に実施する	・すべての入試選考を適正に実施した ・総合型選抜においてエントリー制を導入するとともに、指定校推薦基準を見直した ・3 月に総合型選抜を追加実施した ・2/22 時点での合格者数は総合型選抜 62 名、学校推薦型選抜（指定校）25 名、学校推薦型選抜（公募）11 名、一般前期 3 名、合計 101 名（重複受験 3 名含む）うち入学手続完了者は 93 名（前年同時期より 6 名増）であり、定員確保は難しい情勢である	C
⑤	【OC】 ・新型コロナ感染拡大防止に配慮した安心・安全な OC を実施する ・来場型を主としつつ、遠隔参加型のプログラムを開発・実施する ・学生スタッフの拡充と組織化を図り、研修を実施して来場者対応力の向上を図る	・事前予約、少人数アテンドなど新型コロナ感染防止を徹底した来場型ＯＣを実施した また、随時、個別キャンパス見学や Zoom による Web 相談を実施した ・7/3 総合型選抜相談会を追加実施した ・2/22 までのＯＣ参加者数は高校生等 366 人、保護者 178 人、個別見学には高校生 9 人、保護者 4 人が参加した	B
⑥	【学校訪問・高大連携】 ・従来の高校訪問に加え、高校ガイダンスへの参加を大幅に強化する ・新たに導入する情報共有システムを活用して、効果的な高校訪問を実施する ・新規の連携校獲得を図るとともに、連携校の要望に応える高大連携を推進する	・高校訪問を第 1 期（5～6 月）、第 2 期（9～10 月）、第 3 期（12 月～2 月）に実施した。高校ガイダンスには 2/22 現在、教職員合わせて 151 件参加した ・アクセスオンラインを導入し、受験者・在学生情報の共有と効果的利用を図った ・4 校と連携契約交渉が進行中である	B
⑦	【学生募集・大学広報】 ・キャンパスガイドなどの広報ツールをさらに充実させ、高校生への訴求力を高める ・大学ＨＰの改善、広報媒体の活用を通して、適時・効果的な発信を行う	・制作業者を変更し、キャンパスガイドを刷新し、ＨＰやＳＮＳで適時、広報発信した ・ガイダンス等を通して高校生名簿を 1/31 までに新たに 1,813 件（うち高３生 765 件）を収集したが、定員確保は難しい情勢である	C
⑥	【高大接続】 ・今年度入試の運用結果を踏まえ、次年度以降の入試方法及び奨学金・免除制度の設計・改善に継続的に取り組む	・今年度入試を適正実施できたことから、次年度も入試方法は基本的には変更しない ・次年度においても入試方法及び奨学金・免除制度の設計・改善に取り組みを継続する	B

次年度の課題

・入学定員を何としても確保するために、入試広報課と連携して、広報活動をより一層強化する
・ＯＣ参加者からの出願率の向上を図る

06. 進路・実習指導部

令和３年度の目標
・新型コロナ感染症の動向を踏まえながら、学生のより豊かな実践的体験のための実習実施を図る
・進路が確かなものとなるように積極的な指導をしていく

	具体的な取り組み	進捗状況	評価
①	【実習指導室】 ・保育・教育実習に向けての指導や進路について関連する科目と連携し、個別又は少人数で指導を行う	・保育実習Ⅰ受講者に実習前にはマナーや日誌の書き方等、実習後に振返りについて授業と連携し、個別及び少人数での指導をおこなった	A
②	【教職教育研究センター】 ・将来の進路に向けて１年次生からキャリア教育を進める ・教員がおこなう夏休み・春休みの年２回の教員・公立保幼採用等進路対策講座の充実に努める	・基礎演習Ⅰ・Ⅱでキャリア教育を実施し、学生は自分の進路と向き合った ・夏・春休みに教採・公立保幼採用試験対策座に取り組んだが、コロナ禍のため参加が減少した 小学校教採合格者は９名で、公立保・幼合格者は延べ 12 名であった	A
③	【実習】 ・実習関係する指導の充実を図る 先修条件の充足、実習事前・実習中・事後、教育実習の内諾について指導の充実を図る ・教職課程を履修する学生がおこなう教職課程ポートフォリオについて再考する ・円滑な実習ができる体制に努める ・２月に実習協議会を実施する	・全教員が実習指導に携わり、学生に指導を徹底し、充実した実習になった 保育所実習で感染拡大のため一部・全期間が中止となり、一部の学生は、代替授業となった ・教育実習の先修条件を見なおした。 ・教職課程ポートフォリオは、他大学の状況を調査し、検討したが、実施に至らなかった ・実習協議会は感染予防のため中止とした。案内に同封したアンケート回収し、回答をまとめ、返信及び教職員で共有した	A
④	【ボランティア】 ・進路を考えるためにボランティア・学校インターンを学生に推奨する。現場での体験をより豊かにするため、早い時期からの参加を強く勧める ・短大付属園等との連携強化を図る	・進路を見据えて、学生がボランティア活動に参加している。ただ、コロナ禍のために思うように活動が出来ていない学生もいた ・短大付属幼稚園の「夏祭り」のボランティアの要請はなかった	B
⑦	【進路支援センター】 ・教員と学生情報や就職情報を共有し、連携して学生一人ひとりの想いを大切に進路指導を進める ・就活は短期決戦になることが予想されるため、蓄積されたデータを基に電話やメールでも対応しながら丁寧に指導していく ・教採セミナーのあり方を考える	・学生の多様な希望に対応し、進路相談を進めた。３年次生の個別面談を 11～12 月にかけて実施した ・大阪府等の教員採用試験説明会を本学で実施し、受験に向けての意識を高められた ・教採セミナーは、春期は、集中で開講して、参加率が良かった。秋期の教職教養は授業時間帯で開講し、一般教養は２月末から集中で開講した（感染症対策により ZOOM での受講もした）	A

次年度の課題
　学生が入学時に思い描いた進路、希望する就職ができるように学生の状況に沿ったキャリア教育を継続的にしていく。ボランティア活動の促進や保育・教育実習等の充実のため全教職員がサポートしていかなければならない。教採合格者を増やすため、春期の教採セミナーを教採直前対策・２次試験対策として４回生に絞って実施することが必要である
　学生の進路に向けての活動が充実することで就職につながり、学生募集の増加へとつながる

07. 人権教育推進委員会

令和３年度の目標 人権に関する意識・感覚の向上と能動的行動につなげる人権教育に取り組む			
具体的な取り組み		進捗状況	評価
①	【教育・研修の企画】 ・学生及び教職員を対象とした人権教育研修会を企画し、開催する ・学生に対する人権啓発教材の研究及び啓発活動を進める ・研修及び啓発活動にあたって、新型コロナウイルス感染防止に配慮した方法を検討する	・1 月 19 日（水）2 限目に、主に学生を対象とした人権教育研修会を藤野高明氏を講師に迎えて開催する予定であったが新型コロナウイルス感染拡大のため中止になり、基礎演習の時間に課題として取り組んだ ・教職員向けの研修会は行えなかった。	B
③	【実践につなげる取り組み】 ・人権に対して能動的に行動する学生の育成を目指し、学生らが人権教育の学びを実践する機会について情報提供する ・平野区の人権に関する取組みやイベントに学生の参加を促し、地域との交流を図る	・学生に向けた人権啓発や福祉的なボランティア活動の機会を積極的に提供していくことを目指したが、イベント自体も低調で具体的な形にならなかった	C
④	【役割等の見直し】 ・人権教育推進委員会が創設されてからこれまでの経緯を振り返り、会の役割、規定などについて検討し、整理する	・短大の人権相談の窓口、取り組みなどについて聴いた。今後、委員会内で議論を深め、統合の際の懸案事項として挙げたい	B
⑤			
⑥			
次年度の課題 学生向け、教員向けの研修会を開催する 学生に具体的な活動の場を提供する			

08. 自己点検

令和３年度の目標 教職員の組織的協働を進め、大学の教育力を高める			
	具体的な取り組み	進捗状況	評価
①	【大学評価】 ・教育研究活動の推進につながる自己点検・評価を進める	・各部署が計画的に、自己点検・評価を進めた	B
②	【ＦＤ・ＳＤ委員会】 ・教職員が協働して大学の教育力を高める。各教員は学生の能動的学習を育成する取り組みを進める ・組織的な SD 研修を行う ・教育力向上につながる FD 研修を行う	・各部署が協働して大学の教育力を高める工夫をしてきた ・コロナ禍で計画的な SD 研修は困難であった ・授業参観は計画的にできたが、コロナ禍で授業研修会は延期になった	B
①			
②			
③			
次年度の課題 教職員の組織的な協働をさらに推進できるよう、具体的な計画を立てる			

09. 学生支援

令和３年度の目標			
・関連部署と連携し、支援が必要な学生に対して適切な支援を行う ・学生支援にかかる危機管理マニュアルの作成を検討する ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学生が自己で健康管理できるように指導する			
具体的な取り組み		進捗状況	評価
①	【学生相談室】 ・研究室担当教員、保健センター、「そらいろ」事務局など各部署と連携し、情報の共有を速やかに行い、学生を全学的にサポートする	・7 月 1 月に関係教職員で、要支援・大学生活における心理的不適応の学生についての連絡会を行った 保健センター及び「そらいろ」とは、日常的に利用状況概要等を共有している。学生相談室は、秋期対面授業開始後、担当教員が詰めた	B
②	【カウンセリングケア】 ・実習、学生生活の必要に応じて、支援が必要な学生の情報を迅速かつ適切に関係部署で共有する	・実習ごとに学生の配慮について情報を共有し、実習先の選択や必要な支援等に活かした 実習期間が変更になったり中止になったりしたが連携はできた 学生生活での要配慮学生に対しては、学生部と教学課及び研究室担当教員と各授業担当教員で連携を図っている	B
③	【保健センター】 ・昨年度のオンライン授業下での健康上の訴えや UPI 調査の結果をもとに、学生の対応をすすめていく ・新型コロナウイルス感染症予防の「新しい生活様式」が定着化するよう、保健センターだより等を通じて意識を高める ・毎月の保健センターの個人別利用をもとに、「そらいろ」との連携を深める	・春期は、UPI 調査の結果や実習に向けての問診票をもとに、主にメールや電話で対応を行った。秋期は、進路や実習への不安やとまどいを主訴とする学生に対し、ゆっくり話を聴くことに努めた ・コロナ感染症の予防や発症時の対応等を保健センターだよりを通じて情報発信した ・感染予防の標語を学生から募集したり、昼食時に一口メモや「新しい生活様式」について呼びかけするなど、感染予防の意識を高めた ・カウンセリングルーム「そらいろ」との連絡を密に行って連携を深めた	B
次年度の課題			
・引き続き関連部署と連携し、支援が必要な学生に対して適切な支援を行う ・UPI 検査の結果をもとに、学生支援の参考資料として面談等での活用法の工夫を継続する ・コロナ禍継続の場合、学生支援(健康管理・環境整備など)および注意喚起についてさらに検討する			

10. 地域貢献

令和３年度の目標 平野区をはじめとして、大阪市、八尾市、松原市との地域提携をより充実させ、地域における大学の役割を果たす			
	具体的な取り組み	進捗状況	評価
①	【地域貢献 Project】 平野区をはじめ、大阪市、八尾市、松原市との地域協定の強化を図る ・平野区との地域貢献プロジェクトの会合をもち、平野区との地域協定に基づく各種の取り組みに参加する ・喜連村史の会と連携した授業「喜連村フィールドワーク」の充実 ・「子育て支援事業」「子どもフェスタ」「健康まつり」等に教員・学生を参加させる。(平野ミュージックステーション) ・平野区学力サポート事業に学生を参加させ、子ども共に学ぶ場とする。 (第 7 回子ども(小中)英語スピーチコンテスト)	・8 月 3 日平野区との地域協定に基づく会議を開き、各種取り組みについて確認した ・「喜連村史の会」新型コロナ感染拡大により中止 ・11 月 27 日　平野区　中学生・小学生英語スピーチコンテスト参加申込者（計 42 名）（小学生 A：17 名／小学生 B：12 名／中学生：5 名）オンラインにて実施予定 ・12 月　平野ミュージックステーション ・2 月 8 日保育所への演奏発表会 今年は、新型コロナ感染拡大により、各イベントや学力サポート事業が中止、また教員・学生の参加抑制	B
②	【こどもセンター】 ・子どもの遊び環境を整える （おもちゃ作りなど）	新型コロナ感染拡大により抑制､おもちゃ作り、草花とふれあうイベントを少し実施	B
③	【教育センター】 ・公開講座を開講し地域住民の生涯学習に貢献する ・地域住民のニーズに応える講座を開講する	10 末よりリスタートした 抽選が出るほど人気が上昇	A
④			
次年度の課題 コロナ禍においての大学の地域への貢献をどのように取り組むか、また、どんな企画が考えられるか試行を続けていきたい			

11. 現職支援

令和３年度の目標 ・常磐会短期大学及び本学を卒業した現職はもとより、現場で勤務する教職員等の支援をする ・支援できたの方々が、「常磐会で学んでよかった」と思える充実した研修内容に努めていく			
	具体的な取り組み	進捗状況	評価
①	【現職教育】 ・現職の教員がどういう研修や支援を必要としているかを平野区及び関係機関と協議し、内容の検討をする ・NPO「小学校教員の英語力を伸ばす会」と連携して取組みを進める	・コロナ禍のこともあり、学内での検討に留まった ・NPO「小学校教員の英語力を伸ばす会」と連携して進めた 「平野区小学校教員英語研修会」は、コロナ禍のため中止となったが、住吉川小学校・福島区の９小学校にテキストを寄贈した	B
②	【免許更新】 ・令和３年度は、小学校教諭向けの講習も始まる。新型コロナ感染症対策を講じながら受講者の満足度を向上し、運営が円滑になるように講習会を運営していく	・オンライン講習で８月・11 月で講習会を円滑に実施し、受講者の満足度は得られた。８月の講習会では、小学校教諭を含めた講習会であった	A
③			
④			

次年度の課題

コロナ禍のため、学外関係機関と協議すること自体が難しい状況であるが、学内での現職教育の内容の検討から、再度始める。特に平野区を基盤にどのようなことができるかを再度考えていく

従来の免許更新講習は、政府の廃止の法案提出の予定を踏まえて中止となる。しかし、何らかの現職教師支援のための学習コンテンツの企画については、今後、検討していく

12. 課題推進

令和３年度の目標 各課題の検討や推進を通して、大学の運営・経営の健全化を進める			
	具体的な取り組み	進捗状況	評価
①	将来計画 ・将来の大学のあり方を見据えた教育課程や組織配置について検討する	・開講科目の工夫等、実情に応じた教育課程の推進について検討、実施してきた ・短大の教員と将来構想検討委員会を持った	A
⑤	教養教育 ・実習指導を中心としたリメディアル教育の充実と拡大を図るとともに、具体的な推進策を検討する。 ・本学における「教育者をめざす学生にとってふさわしい教養教育の在り方」を検討のうえ、具体的な実施に向けた取り組みを行う	・チャレンジ講座から実習指導の場で、リメディアル教育を進めているが、学生に十分周知できていない ・「本学における『教育者をめざす学生にとってふさわしい教養教育の在り方』」について定義を行うため、担当者で資料共有を行った。開講講義の中で、無理なく行える教養教育とはどうあるべきかの検討につなげたい	B
③	リメディアル ・他学の導入事例や実践事例の調査分析を行うとともに、結果を論文等にまとめる ・対面・オンライン・ハイブリッド型等、一般的なスキル獲得を目的としたリメディアル教育の実施方法について検討する	・他学の導入事例や実践事例の調査分析をひきつづき実施した。明らかになった成果の一部は、論文として関連する学会に投稿した ・対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド型、特にハイフレックス型で実施したリメディアル教育の実践の成果と課題を論文としてまとめ、関連する学会に投稿した	C
⑤	学生募集 定員確保ができる学生募集のあり方を検討し、推進する	・オープンキャンパスの参加者の動向や学校訪問の報告に基づいて学生募集の進め方を工夫してたが、目標値には至らなかった	C
次年度の課題 各課題が具体的に解決できるよう、工夫していく			

13. 総務課

令和３年度の目標

・心地よい施設を目指す（・1 号館学舎の塔屋修繕・1 号館トイレの洋式化・照明の LED 化等）
・外部資金の獲得（104PC 教室）・教室備品の更新計画を検討する。（1 号館、机・椅子等）
・大学学舎の修繕計画のたたき台を作成する。（5 年計画、10 年計画）

	具体的な取り組み	進捗状況	評価
①	【施設・設備】 ・1 号館の塔屋修理 ・1 号館トイレ洋式化 ・照明器具の LED 化	・塔屋の時計をソーラー時計に交換した １・２号館の雨漏り修理、交流ラウンジの天井塗装、交流ラウンジと食堂近くの廊下に電子ピアノを設置した ・1 号館トイレを洋式化し、手洗いと照明はセンサー式にした ・学生駐輪場、ロッカー棟、自治会室、多目的演習室、1 号館資料室、1 号館研究室、学生自習室、2 号館多目的講義室、204LL 教室等を LED 化した ・その他、空調機の修理・点検、ウッドデッキとベンチの補修と塗装修理、中庭インターロッキング高圧洗浄、3 号館雨水桝の清掃、中庭サークルベンチを修理した	A
②	【外部資金の獲得】 ・104PC 教室更新	・獲得金額：4,979,000 円 マイクロソフト 365 ライセンス、遠隔授業用仮想サーバー、バックアップ用 NAS、高機能無停電電源装置、学生用ノートパソコン一式、デジタルビデオカメラ、映像ミキサー、ワイヤレスマイク、コンデンサーマイク、ポールポッド、三脚、HDMI-USB 変換アダプタ	A
⑥	【更新計画・修繕計画】 ・備品（机・イス）の更新計画を検討する ・大学学舎の修繕計画のたたき台を作成する	・備品については検討 ・過去の修繕履歴を洗い出した（10 年分）	A

次年度の課題

・修繕計画の作成と学園全体を通しての修繕の優先順位の検討及び使用施設の提案と整理
・コロナ禍の中での教育センター開催の工夫（内容の提案と開催時期や方法）
・授業用の教員貸出 PC の購入　・小学校実践室のタブレット購入　・ファイヤーウォールの更新
・LED 照明の更新　・受付業務、清掃作業、用務作業の整理

14. 教学課

令和３年度の目標 ・教務部・学生部と連携し、総合的に学生をサポートする体制を強化する ・学生・教職員がトキガクポータルを利用するよう、引き続き啓発する			
具体的な取り組み		進捗状況	評価
①	【教務部との連携】 ・免許・資格・卒業等の履修状況把握や履修登録がスムーズに行えるよう、教務部と連携し、迅速に対応できるようにする	・教務部とは連携はできていた 実習等の先修条件は進路・実習指導部と話し合い、来年度から運用する条件を決めた	B
②	【学生対応】 ・学生対応のために学生情報を課内で共有し、個に応じたサポートを行う ・支援等を要する学生の対応について、教職員及び保健センター・学生部（学生相談室）と情報共有し、支援体制を整える ・進路・実習部と連携し、学内外でのマナーの向上を促す	・学生情報は常に課内で共有した ・コロナによる入構禁止期間も時差勤務で対応し、対面・電話等で学生サポートを行った ・今年度になってからはコロナ感染者情報が増えたので保健センターと連携して情報共有をしていたが、時折情報がとぶことがあった	B
③	【学生部との連携】 ・学生部と連携し大学生としての自覚ある行動ができるよう、協力を図る ・自治会・学生の自主的な活動や行事等の支援を行う	・コロナで学生と対面で接する機会が少なかったことで、なかなか難しかったが、電話等でもできる限りの支援・指導は行った	B
④	【トキガクポータル】 ・遠隔授業に伴い、更にトキガクポータルの活用を学生・教職員に勧める ・情報周知時にトキガクポータルを活用する	・コロナで遠隔授業が多かったため、問い合わせの電話対応が多かった（教員・学生） ・いろいろなお知らせをポータルで周知したが、遠隔授業中は情報量が多くなりなかなか周知が難しかった	B
次年度の課題 ・ポータルサイトと office365（Teams）との併用方法			

15. 会計課

令和３年度の目標 配置転換による新体制のもと、業務の合理化を図る			
具体的な取り組み		進捗状況	評価
①	【業務見直し・合理化】 ・配置転換による新体制のもと、業務分担を見直し、業務経験者が未経験者をフォローすることにより円滑に業務を遂行する	・年度途中に業務体制が４名から３名になったことにより、一人当たりの業務量が増え、監査等の繁忙期の業務に支障が出たその間、他部署からの協力を得ることで業務を遂行することができた	B
②	【事務手続】 ・トキガクポータルを活用し、学費や各種費用の納入期間、および書類提出期日の周知徹底を図る	・トキガクポータルを通じて、学費の納付書の発送や延期願の提出等の手続き期間を周知し、手続きの漏れがないよう促したことで、スムーズに処理をすることができた	A
③			
④			
⑤			
次年度の課題 会計システムの有効活用など業務軽減のための改善策を見出していきたい			

16. 図書館運営委員会

令和３年度の目標
・特色ある図書館を目指す
・利用者サービスの充実を図る

	具体的な取り組み	進捗状況	評価
①	【特色ある図書館】 ・絵本・児童書他こども教育関連図書の充実・整備を図る ・実習関連図書を充実させる	・絵本・児童書他こども教育関連図書及び実習関連図書に力を入れて収書しているところである	A
②	【主催行事】 ・図書館主催の行事（絵本の読み聞かせ会選書ツアー）は去年度は新型コロナウイルス感染症のため、実施出来なかったが、今年度は状況をみながら、今までとは違ったやりかたを考えていきたい	・現在、緊急事態宣言もあけ、コロナ感染者数も減少傾向にある中で、教員選書会は、書店の協力を得て、復活することができた 学生選書会等学生に関する行事は、今年度は見合わせたが、ポータルサイト等を利用して、図書館に置いてほしい本の募集をしたい	A
③	【利用サービス】 ・去年度図書館蔵書システムのバージョンアップを行い、外部から検索できるようになったことで、予約貸出、郵送等システムをさらにすすめていきたい ・「聞蔵」や「ジャパンナレッジ」など図書館の利活用を発信していきたい ・卒論や抄録の紹介、実習前の本の選び方、参考図書や採用試験の問題集の紹介等も発信していきたい	・予約貸出、郵送等のシステムは、継続している。対面授業が復活している現状ではあるが、直接図書館に来館しての利用者は少ないやはり、入学時の説明等ができていないのも一因であると考えられる ・「聞蔵」や「「ジャパンナレッジ」などの利活用及び卒論や抄録の紹介等々の発信は、ポータルサイト等を利用していくように考えている ・先生方の授業での利用や先生方の研究等での収書など考えを伺いつつ利用促進を図っていきたい	B

次年度の課題

図書館の収書については、毎年計画的に購入しているが、さらに必要な図書があるかどうか、今後学生や先生方の希望もききながら選書していきたい

今年度は、教員選書会ができたので、来年度はコロナ禍の動向を見ながら、学生選書会等の行事を少しでも元の状態にもどしていければと考えている

コロナ禍になってからは、以前に比べて当然のことながら入館者が少ない。図書館のＨＰや大学・短大のポータルサイトから、日時の変更、貸出返却期限の変更、新着図書の紹介等配信している

「聞蔵」や「ジャパンナレッジ」も今年度は先生方に発信出来たので、来年度は学生にも伝えていきたい

17. 入試広報課

令和3年度の目標 募集定員確保（総合型で70名、学校推薦型で50名をめざす）と入試の円滑実施			
	具体的な取り組み	進捗状況	評価
①	＜広報活動＞ ・各制作物や発送・発信をタイムリーに実施して、資料請求者を募る ・Instagramの活用 ・動画を作成して、大学HP及びYouTubeにUPする ・在学生の協力による高校生に情報発信	・資料請求者へは現在まで滞りなく発送できており、資料請求者も順調に伸びている ・新たな業者に変更して 3 本の動画を制作した ・学生からの投稿もあり、更新できている	B
②	＜OC＞ ・OCの案内状(DM)送付して、動員増を図る ・Instagram広告を活用した情報発信 ・大阪南部の駅広告や外周フェンスへの案内ポスター制作	・今年度からデザインの方向性を統一して制作している ・11 月まで計 6 回掲示しているおり、今年度から開催日が近い 2 日分を 1 枚のポスター（5月6月、7月、8月）にしている	B
③	＜学校訪問・進路ガイダンス＞ ・主要校を担当教員および入試広報課により訪問を実施 ・高校ガイダンス及び会場ガイダンスを担当教員と入試広報課で積極的に参加し、高校教員・高校生との接触回数を増加	・滞りなく実施、プラスαとして主要高校以外についても、OC 参加や資料請求の多い高校へ入試広報課で訪問している。特に 11 月以降で3年生からの請求があった場合、訪問するように心がけた ・順調に参加できているが、教育保育希望者が減少する中、着実に資料請求者を増加させている	A
④	＜入試選考＞ ・総合型にエントリー制を導入 ・学校推薦型（指定校）の高校評定を見直し早期の案内・発送を実施 ・年内入試に奨学金（入学金の減免）を充て資料請求者への告知を工夫 ・入試実施のための準備、試験実施、成績処理、合否発送などの各業務を点検、改善	・総合型について、次年度に向けてのエントリー期間見直しを検討 ・評定平均値を見直し、書類を5月末に発送した ・全体として、入試の選考方法など滞ることなく実施できたが、募集定員を満たすことはできなかった	C
次年度の課題 保有名簿に対して効果的な働きかけを行い、オープンキャンパス・出願に繋げ募集定員を確保する			

Ⅱ　教員の研究分野・内容・実績

「教員の研究分野・内容・実績」について

この章では本学の全専任教員の研究分野、研究内容を紹介し、本年度の教育研究活動の実績を教員ごとに表にまとめている。

本学 HP においても、本学の情報公開の形に合わせ、全専任教員の学位を記載している。

また、教育活動については、授業担当教科に合わせて、その他の活動として本学の教育センターの公開講座などについても記載しているが、今年度はコロナ感染防止の観点から中止しているものもある。なお、記載した授業担当教科以外にも、1 回生・2 回生のいずれかの担当となり、基礎学力の向上や論文執筆の基礎、キャリア教育などを行う「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」という授業も行っている。更に 3 回生、4 回生の担当となり卒業論文執筆の指導に当たる「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」の担当もしている。

研究活動については、専攻分野、所属学会、研究課題と研究キーワード等を記載し、その教員の研究分野が分かるようになっている。また、本年度の研究業績については、本年度に行ったものから代表的な研究活動のみを記載している。更に、教育活動と研究活動以外に社会に貢献するような活動を行っている教員はそれも記載している。

職名	教授	氏名	Ａｌｅｘ．Ｍ．林	学位	修士（文化学）
校務分掌	研究部(授業研究)、学生支援(海外研修)、入試問題作成委員、地域貢献				

教育活動

担当授業科目	英語スピーチプレゼンテーション、リスニング・フォー・コミュニケーション、 英語学演習、欧米の子ども文化、ベーシック・イングリッシュ・カンヴァセーション、 幼児英語教材研究、幼児英語実践論、中学英語、中学教科教育法（英語）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
その他の活動	地域密着型情報発信　FM 放送 DJ パーソナリティ平野区学力サポート事業（小学生・中学生のための英語スピーチコンテスト）監修大阪市英語授業サポート、全日本大学生英語スピーチコンテスト審査委員 高校生・中学生英語プレゼンテーション指導研修委員

研究活動

専攻分野	日米文化比較（言語・文化） バイリンガル教育 プレゼンテーション（言語）
所属学会	大学英語教育学会、国際ビジネスコミュニケーション学会、日本英語授業研究学会
研究課題	英語プレゼンテーション、英語ティーチング・メソッド、英語教材
研究キーワード	プレゼンテーション、バイリンガリズム、キッズイングリッシュ、クロスカルチャー

著書

書名	単/共	発行年月	発行所
Let's Cross Culture!（第 8 版改訂）	単	令和 3 年 8 月	朝日カルチャー出版
中学英語リスニングテスト	単	令和 3 年 9 月	全日本模試
中学英語「主体的・対話的で深い学び×CLIL×ICT×UDL」	共	令和 4 年 3 月	大学教育出版

論文

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等

発表等

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等
第 51 回　天野杯　全日本大学生英語弁論大会	共	令和 3 年 10 月	獨協大学　草加キャンパス
第 7 回　平野区子供英語スピーチコンテスト	共	令和 3 年 11 月	大阪市平野区役所
第 71 回　高校生英語弁論チャーチル杯	共	令和 3 年 11 月	関西学院大学
第 51 回　学長杯争奪学生英語弁論大会	共	令和 3 年 11 月	龍谷大学 深草キャンパス
第 71 回 高崎市長杯英語弁論大会	共	令和 3 年 11 月	高崎経済大学
第 19 回　津田梅子杯争奪学生英語弁論大会	共	令和 3 年 12 月	津田塾大学　小平キャンパス

社会貢献活動等

活動内容等	・全日本社会人・大学生英語弁論大会審査委員長 ・全日本高校生英語弁論大会審査委員長 ・大阪市平野区子ども英語スピーチコンテスト監修・審査委員長 ・高校生・中学生英語プレゼンテーション指導研修講師 ・大学英語教育学会(元社員)・大学英語教育学会（学術論文審査・査読委員） ・地域密着型情報発信　FM 放送 DJ パーソナリティ

職名	講師	氏名	井上　敏孝　（イノウエ　トシタカ）	学位	博士　（学校教育学）
校務分掌	入試部　教養教育検討委員会　リメディアル教育検討委員会　高大接続検討委員会　１年次指導				

教育活動

担当授業科目	社会　社会科教育法　日本国憲法　交流教育の指導　総合演習教職Ⅱ　介護等体験実習
その他の活動	兵庫教育大学　非常勤講師

研究活動

専攻分野	日本史・アジア史・教科教育学関連
所属学会	台湾史研究会・社会系教科教育学会・日本社会科教育学会・日本家政学会・日本技術史教育学会・日本インターンシップ学会・日本教育情報学会・日本産業技術史学会・史訪会　等
研究課題	歴史学の視点を組み込んだ社会科教材開発及び授業構想力の育成
研究キーワード	台湾史　社会科教育　教科教育学　人材育成　土木史

著書

書名	単/共	発行年月	発行所
日本統治時代台湾の築港・人材育成事業	単	2021 年 5 月	晃洋書房

論文

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等
「4 コママンガ」・「歌」・「擬人化」を取り入れた 教員養成課程における歴史学習	単	2021 年 5 月	『東洋史訪』第 28 号、pp. 35-48
戦前期における土木会議の設立について－港湾部会での審議事項を中心に－	単	2021 年 9 月	『土木学会論文集 D2（土木史）』Vol. 77、1 号、pp. 68-79
戦前のバンコク港を巡る国際コンペへの参加と設計案について	単	2021 年 9 月	『タイ国情報』55 巻 5 号、pp. 86-99
八仙山におけるインクライン	単	2021 年 9 月	『森林技術』第 954 号、pp. 28-31
大泊港における水陸連絡設備について	単	2021 年 10 月	『技術と文明 別号』第 23 巻、pp. 1-10
日本統治時代台湾の金瓜石における架空索道について	単	2021 年 11 月	『鉱山』第 74 巻第 7 号、pp. 20-24
戦前の「鮮満一如」構想による多獅島港開発	単	2021 年 12 月	『海事交通研究』70 巻、pp. 55-61
昭南における港湾復旧・整備工事について	単	2022 年 2 月	『土木学会論文集 D2（土木史）』Vol. 78、1 号、pp. 1-10

発表等

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等
大泊港における水陸連絡設備	単	2021 年 8 月	史訪会第 28 回学術討論会
VUCA 時代における円滑なコミュニケーション能力の獲得と“しなやかさ”の育成	単	2021 年 11 月	日本社会科教育学会第 70 回全国研究大会　オンライン開催
日窒鉱業株式会社江迎鉱業所の架空索道と石炭積込装置について	単	2022 年 3 月（予定）	日本技術史教育学会関西支部 2021 年度研究発表講演会　オンライン開催

社会貢献活動等

活動内容等	史訪会　副会長兼編集委員長・日本技術史教育学会関西支部　幹事(企画)・近鉄文化サロン講師・アジア探訪研究所　研究所員・日本私立学校振興・共済事業団 2021 年度若手・女性研究者奨励金・常磐会学園大学　教員免許状更新講習・常磐会学園大学　社会教育センター公開講座講師

職名	教授	氏名	植原　和彦（ウエハラ　カズヒコ）	学位	学士（経済学）
校務分掌	教務部　図書館運営委員会				

教育活動

担当授業科目	「学校経営と学校図書館」「学習指導と学校図書館」「学校図書館のメディアの構成」「教育原理」
その他の活動	岸和田市教育委員会教育長職務代理　　岸和田市緑化協会監事

研究活動

専攻分野	生涯学習論・学校図書館　就学前教育
所属学会	学校図書館学会　関西教育学会
研究課題	幼稚園、小学校、中学校の連続性について、学校図書館の活用とアクティブラーニング
研究キーワード	学校図書館　　主体的な学び　　幼小連携

著書

書名	単/共	発行年月	発行所
保育士試験の要点	共	令和３年４月	大阪教育図書 保育問題検討委員会
教員採用試験・公務員一般教養　SPI、専門教養過去問題	共	令和３年４月	大阪教育図書
福祉小六法	共	令和３年４月	みらい社
「保育士資格・採用試験問題 200 選」	共	令和３年４月	大阪教育図書　保育問題検討委員会
幼稚園・幼保認定型こども園教員採用試験問題 200 選」	共	令和３年４月	大阪教育図書 幼稚園採用試験検討委員会
役立つ保育・教育用語集	共	令和３年４月	大阪教育図書

論文

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等
主体的・対話的で深い学びと学校図書館	単	令和４年３月	関西短期大学図書館紀要

発表等

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等
主体的・対話的で深い学びと学校図書館	単	令和３年９月	関西短期大学図書館協議会

社会貢献活動等

活動内容等	岸和田市公園緑化協会監事 大阪健康保育評価委員 大阪調理師専門学校評価委員 すこやか認定こども園第三者評価委員 岸和田市教育委員会教育長職務代理

職名	講師	氏名	大隅　敏明（オオスミ　トシアキ）	学位	修士（情報学）
校務分掌	学生部　情報センター　学生相談室　ハラスメント防止対策相談員　リメディアル教育委員会				

教育活動

担当授業科目	情報基礎演習Ⅰ　情報基礎演習Ⅱ　総合演習教職Ⅰ プレゼンテーション演習　ウェブデザイン演習 ボランティア概論　ボランティア演習
その他の活動	

研究活動

専攻分野	情報教育
所属学会	情報文化学会、教育システム情報学会
研究課題	学校教育におけるプログラミング教育の在り方の考察
研究キーワード	教育のデザイン、科目デザイン、大学教育、支援システム
著書	

書名	単/共	発行年月	発行所
教員採用試験・公務員一般教養　SPI、専門教養過去問題	共	令和３年４月	大阪教育図書

論文	

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等

発表等	

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等

社会貢献活動等

活動内容等	

職名	教授	氏名	大森　彰（オオモリ　アキラ）	学位	社会学士
校務分掌	進路・実習指導部、進路支援センター運営委員				

教育活動

担当授業科目	総合演習教職Ⅱ、幼児理解、カウンセリング実務演習Ⅱ、学校の危機管理、教育実習事前事後指導、カウンセリング実務論、、多文化共生概論、教育課程総論
その他の活動	

研究活動

専攻分野	教師教育学
所属学会	日本教師教育学会、日本教育社会学会、日本交流分析協会、日本教育カウンセラー協会
研究課題	人権教育を基板に据えた授業研究・集団づくり
研究キーワード	生徒指導、授業研究、コミュニケーション力、人権
著書	

書名	単/共	発行年月	発行所

論文	

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等
	単		

発表等	

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等

社会貢献活動等

活動内容等	令和３年　　11 月松原市市民協働課　多文化共生研修会、１２月富田林市立錦郡小学校講演会 社会福祉法人「風媒花」評議員（平成２５年より年間を通して） 平野区「喜連村史の会」との連携活動

職名	教授	氏名	岡（宮薗）美佳	学位	博士（文学）
校務分掌	研究部、図書館運営委員会、教養教育検討委員会、リメデイアル教育検討委員会、１年次指導				

教育活動

担当授業科目	国語科教育法（書写を含む）、小学国語（書写を含む）、コミュニケーション基礎、言語表現法、読書と豊かな人間性、児童文学研究、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、保育実践演習Ⅱ（分担）
その他の活動	教員免許更新講習　選択必修　「子どもと言葉」

研究活動

専攻分野	日本近代文学・国語教育
所属学会	日本近代文学会、日本近代文学会関西支部、日本文芸学会、阪神近代文学会、日本キリスト教文学会、日本キリスト教文学会関西支部、日本国語教育学会、日本保育者養成教育学会
研究課題	近代文学における教師像、近代文学におけるキリスト教の表象
研究キーワード	近代文学、夏目漱石、文化表象

著書

書名	単/共	発行年月	発行所
『遠藤周作事典』	共	2021 年 4 月	鼎書房 担当箇所 「中年の作家」「江藤淳」「内村鑑三と文学」「『自分をどう愛するか〈生活編〉幸せの求め方』」

論文

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等
「コロナ禍に伴う保育実習遅延に際した学びについての一考察――総合演習保育Ⅱにおける３教員の試み――」	共	2022 年 3 月	「常磐会学園大学研究紀要」第 22 号（予定）
「常磐会学園図書館における感染症対策」	単	2022 年 3 月	『短期大学図書館研究』第 40・41 合併号（予定）

発表等

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等
多面的な保育の営みの中に実習を位置づける意識を育てる―総合演習保育Ⅱの試み―	共	2022 年 3 月	日本保育者養成教育学会第６回研究大会（web 開催　主催校：日本女子大学）

社会貢献活動等

活動内容等	阪神近代文学会会長、日本キリスト教文学会関西支部運営委員、日本文芸学会常任理事 2021 年度　社会福祉法人　清和会　幼保連携型こども園清和こども園評議員 2021 年 11 月 27 日　神戸文学館　講演「内田百閒から見た夏目漱石」

職名	准教授	氏名	笠川　武史（カサガワ　タケシ）	学位	修士（芸術学）
校務分掌	運営部会、学生部長、将来計画検討委員会、大学評価委員会、ＦＤ委員会、ハラスメント防止対策委員会、学生相談室、カウンセリングケア、保健センター運営委員会、				

教育活動

担当授業科目	図画工作科教育法、総合演習教職Ⅱ、教育実習事前・事後指導、保育表現指導、絵本の指導、保育内容(表現Ⅱ)、教職実践演習
その他の活動	

研究活動

専攻分野	芸術学(日本画) 図画工作,造形表現
所属学会	社団法人 日展(第１科日本画) 会友、新日春展 会友、京都日本画家協会会員、 日本画研究団体「東丘社」会員 全国大学造形美術教育教員養成協議会、全国保育士養成協議会、日本保育者養成教育学会
研究課題	日本画、保育・教職の現場で活用できる造形表現力と指導力の向上
研究キーワード	日本画、岩絵の具、技法、表現、感性

著書

書名	単/共	発行年月	発行所
なし			

論文

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等
保育表現指導科目におけるリモートを活用した授業展開について	共	令和４年３月	研究紀要 第22号 常磐会学園大学
学生アンケートを通した幼児期の表現活動についての意識調査	共	令和４年３月	研究紀要 第22号 常磐会学園大学

発表等

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等
第５回 新日春展　奨励賞	単	令和３年 ４月	新日春会
第８回 日展(第１科 日本画)　特選	単	令和３年10月	社団法人 日展
保育表現指導科目におけるリモートを活用した授業展開について	共	令和４年３月	日本保育者養成教育学会第６回研究大会

社会貢献活動等

活動内容等	・泉佐野市民展 日本画・洋画・平面作品の部　審査員

職名	教授	氏名	加藤　達雄（カトウ　タツオ）	学位	修士（教育学）
校務分掌	進路実習指導部、将来構想検討委員会、大学評価委員会、ＦＤ委員会、実習指導室、進路支援センター運営委員会、地域貢献プロジェクト				

教育活動

担当授業科目	体育科教育法、保育内容（健康）、ウェルネスの科学、保育表現指導、総合演習教職Ⅰ
その他の活動	常磐会短期大学・常磐会学園大学　教員免許状更新講習講師 大阪府立芥川高校出前授業「レクレーション」 大阪府立岬高校出前授業「レクレーション、運動あそび」

研究活動

専攻分野	健康・スポーツ科学
所属学会	日本体育学会、日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会、日本ウォーキング学会、保育者養成教育学会、日本トレーニング学会
研究課題	運動あそびの習熟、幼児・児童・青年の体力・健康観、性教育
研究キーワード	運動学、バイオメカニクス、健康

著書

書名	単/共	発行年月	発行所
なし			

論文

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等
保育表現指導科目におけるリモートを活用した授業展開について	共	令和４年３月	常磐会学園大学紀要 22 号

発表等

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等
保育表現指導科目におけるリモートを活用した授業展開について	共	令和４年３月	保育者養成教育学会第６回研究大会

社会貢献活動等

活動内容等	・常磐会学園教育センター公開講座講師 ・大阪市平野区健康まつり実行委員会委員・監事 ・香芝市まちづくり提案活動支援事業審査委員・副会長 ・香芝市子ども・子育て会議委員・会長 ・平野区コミュニティ育成事業の選定会議委員

職名	准教授	氏名	坂口　静子(サカグチ　シズコ)	学位	学士　(教育学)
学務分掌	進路・実習指導部　実習指導室運営　　こどもセンター運営委員会 常磐会学園乳幼児研究部会				

教育活動

担当授業科目	幼児教育課程論、保育方法論、保育実習指導Ⅱ、保育実習Ⅱ、総合演習保育Ⅰ・Ⅱ 保育実践演習、教育実習、幼稚園教育実習事前事後指導
その他の活動	実習指導室業務　　教育保育実習の手引き・実習日誌作成業務　　こどもセンター運営委員 乳幼児教育研究会運営委員　　進路実習指導部委員

研究活動

専攻分野	子ども学（子ども環境学）
所属学会	日本心理学会　　日本保育学会　　日本保育者養成教育学会
研究課題	認定子ども園が本格化する現状の中、よりよい保育者としての質とはどうあるべきかを研究する。
研究キーワード	保幼小連携　　地域連携　　預かり保育　　子育て支援
著書	

書名	単/共	発行年月	発行所

論文			
幼児教育の現代課題に即した保育案作成力 ～「教育実習事前指導」等の保育指導案作成から～	単	2022 年 3 月	常磐会学園大学研究紀要第 22 号
コロナ禍に伴う保育実習遅延に際した学びについての一考察 ～総合演習保育Ⅱにおける 3 教員の試み～	共	2022 年 3 月	常磐会学園大学研究紀要第 22 号
発表等			
多面的な保育の営みの中に実習を位置付ける 意識を育てる ～総合演習保育Ⅱの試み～	共	2022 年 3 月 6 日	日本保育者養成教育学会第 6 回研究大会

社会貢献活動等

活動内容等	・こども青少年局保育・幼児教育センター関連事業委託業者 選定会議委員 ・大阪市住之江区 2 歳児子育てケアプラン作成事業　選定会議委員

職名	教授	氏名	佐谷　力（サタニ　ツトム）	学位	経済学士
校務分掌	運営部会　研究部長　ＦＤ委員会　学生相談室　大学評価委員会　将来構想検討委員会				

教育活動

担当授業科目	私たちと人権　学校教育相談　生徒・進路指導論　カウンセリング実務演習Ⅰ
その他の活動	

研究活動

専攻分野	教育学
所属学会	日本学校教育相談学会
研究課題	カウンセリングの考え方を生かした教育実践
研究キーワード	カウンセリング　信頼関係づくり　教育相談　生徒指導　人権
著書	

書名	単/共	発行年月	発行所

論文			
タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等

発表等			
タイトル	単/共	発表年月	発表学会等

社会貢献活動等

活動内容等	＜令和３年度 講演会・研修会講師＞ ・大阪府教員 小学校・中学校　各 10 年経験者研修 ・大阪府教員　高等学校・支援学校　各インターメディエイト研修 ・大阪府教員 小学校・中学校・高等学校・支援学校　各初任者研修 ・寝屋川市教員 ４年目研修、10 年目研修 ・枚方市教員 ３年目研修 ・堺市教員 学校教育相談研修 ・茨木市教員 教育相談研修 ・松原市人権教育研究会 幼児人権教育部講演会 ・読売「教育フォーラム」講演会 ・兵庫県専修学校各種学校連合会 教職員教養講習会 ・大阪私立学校保健大会（共催）大阪府学校保健会学校医師会　講演会 ・大阪私立学校人権教育研究会 人権研修会 ・校内教員研修（初芝立命館高校、藤井寺工科高校）

職名	教授	氏名	荘司　泰弘（ショウジ　ヤスヒロ）	学位	博士（教育学）
校務分掌	教務部、こどもセンター運営委員会、図書館運営委員会、乳幼児教育研究会、１年次指導				

教育活動

担当授業科目	保育内容総論、保育内容（環境）、保育実習指導Ⅰ、保育内容研究、保育者論、保育内容（人間関係）
その他の活動	日本自然保育学会会長、日本ペスタロッチー・フレーベル学会理事、日本乳幼児教育学会論文査読委員、

研究活動

専攻分野	幼児教育
所属学会	日本ペスタロッチー・フレーベル学会、日本自然保育学会、日本乳幼児教育学学会
研究課題	フレーベルの教育遊具
研究キーワード	フレーベル、教育遊具、こども園、自然保育
著書	フレーベル教育遊具の研究

書名	単/共	発行年月	発行所

論文	

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等

発表等	

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等

社会貢献活動等

活動内容等	データベース・フリードリッヒ・フレーベル記録編纂者

職名	専任講師	氏名	白川　晴美（シラカワ　ハルミ）	学位	修士　（教育学）
学務分掌	入試部　１年次指導　常磐会学園乳幼児研究部会				

教育活動

担当授業科目	保育者論、保育実習指導Ⅱ、保育実習Ⅱ、総合演習保育Ⅰ・Ⅱ 保育実践演習　保育の計画と評価
その他の活動	日本メディカル福祉専門学校　非常勤講師　姫路大学　非常勤講師

研究活動

専攻分野	幼児教育・社会福祉
所属学会	日本保育学会　　日本保育者養成教育学会　日本自然保育学会　日本乳幼児保育者学会
研究課題	子どもを尊重する為の環境や人間関係についての研究
研究キーワード	子どもの権利　子どもの最善の利益　異年齢保育　多様性

著書

書名	単/共	発行年月	発行所

論文

異年齢保育における人間関係の一考察	単	2022 年 3 月	「常磐会学園大学研究紀要」第 22 号（予定）
「コロナ禍に伴う保育実習遅延に際した学びについての一考察　～総合演習保育Ⅱにおける３教員の試み～	共	2022 年 3 月	「常磐会学園大学研究紀要」第 22 号（予定）

発表等

多面的な保育の営みの中に実習を位置付ける意識を育てる　～総合演習保育Ⅱの試み～	共	2022 年 3 月 6 日	日本保育者養成教育学会第 6 回研究大会

社会貢献活動等

活動内容等	第６回日本自然保育学会　会計

職名	専任講師	氏名	中村　哲也　（ナカムラ　テツヤ）	学位	教職修士　（教育学）
学務分掌	教務部　学生相談室　高大接続検討委員会　実習指導室　教職教育研究				

教育活動

担当授業科目	こども学　地域学習論　教育制度論　教育実習指導　教育史　　ボランティア実習　生活科教育法　教職実践演習

研究活動

専攻分野	教育学　教育方法学
所属学会	日本生活科・総合的学習教育学会　日本教育方法学会　日本学校心理士会　日本教育カウンセリング学会　日本ピア・サポート学会　日本協同教育学会
研究課題	小集団を活用した協同的・対話的な学習活動の実践方法
研究キーワード	生活科・総合的な学習の時間　協同学習　グループ・ワーク　アクティブ・ラーニング　SGE　グループダイナミクス　アドラー心理学
著書	
論文	

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等
習得型 Question Learning（QL-1）の開発 -学習意欲の理論に基づく学習者による問題作りと相互出題による授業モデル -	単	2022/3	研究紀要 第 22 号 常磐会学園大学
コロナ禍における PTA 活動の有用性について	共	2022/3	研究紀要 第 22 号 常磐会学園大学
児童は幼小施設一体型連携校をどのようにとらえているのか －生活科・総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメントを通して－	共	2022/3	研究紀要 第 22 号 常磐会学園大学

発表等	

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等
生活科・総合的な学習の時間の授業における協同的な対話活動の実現 「協同学習」の視点に基づく実践報告の調査・分析	単	2021/6	日本生活科・総合的学習教育学会
学習意欲の理論をもとにした協同学習の授業デザイン	単	2021/10	日本協同教育学会
協同学習を協同的に学ぶ ―参加者同士の学びあい・高めあいを活かした授業づくり―	共	2021/10	日本協同教育学会

社会貢献活動等

活動内容等	・平野みんな食堂パイオニア　スーパーバイザー ・平野みんな食堂事業参加 （みんな食堂ネットワークフォーラム　みんな食堂まつり　キャンプ等） ・大阪市課外活動事業業者選定会議委員 ・きょうどう・探究型授業づくり研究会主催 ・令和 3 年度大東市教育改善会議出席 ・授業改善研修指導助言　大東市立（住道中学　北条中学　深野中学）四条畷市立田原中学

職名	准教授	氏名	昇　慶一（ノボリ　ケイイチ）	学位	学士　（法律学）
学務分掌	運営部会　入試部長　将来計画委員会　大学評価委員会　ＦＤ委員会 高大接続委員会　学生募集　実習指導室				

教育活動

担当授業科目	子育て支援　社会的養護Ⅰ　社会的養護Ⅱ　子どもの生活と権利　介護概論 総合演習教職Ⅰ　保育実習指導Ⅲ　保育実習Ⅲ
その他の活動	保育実習（施設）の実習施設調整担当 公立幼稚園教諭・保育士採用試験対策サークル（「たまごサークル」）顧問

研究活動

専攻分野	社会法学（児童福祉分野）
所属学会	日本子ども虐待防止学会　児童福祉法研究会　児童養護研究会
研究課題	児童福祉現場における子どもの権利保障
研究キーワード	子どもの権利　児童虐待　社会的養護　司法福祉
著書	

書名	単/共	発行年月	発行所

論文			
タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等

発表等			
タイトル	単/共	発表年月	発表学会等

社会貢献活動等

活動内容等	社会福祉法人千里聖愛保育センター 理事 社会福祉法人和泉乳児院 苦情解決第三者委員 社会福祉法人永寿福祉会 苦情解決第三者委員 社会福祉法人泉大津市社会福祉協議会 苦情解決第三者委員 社会福祉法人泉大津市社会福祉協議会 評議員（令和３年６月～） NPO 法人子どもアドボカシーセンターOSAKA 理事（令和３年６月～） NPO 法人子どもアドボカシーセンターOSAKA 子どもアドボカシー基礎講座講師（令和３年５月 15 日） 一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYA 子どもアドボカシー基礎講座講師（令和３年 10 月 24 日） 子どもアドボカシーセンター広島 子どもアドボカシー基礎講座講師（令和４年２月６日） 社会福祉法人社会福祉協議会児童施設部会 大阪府 合同人権研修会講師（令和４年３月７日）

職名	教授	氏名	ビル・ロッケンバッハ	学位	修士（数学）
校務分掌	学生部　　海外研修				

教育活動

担当授業科目	英語Ⅰ・Ⅱ　　実用英語　　英語学概論　　英語文学講読（閉講） アクティヴコミュニケーション　　リーデイング・フォー・コミュニケーション 英語コミュニケーション概論　　英語Ⅲ　　総合演習教職Ⅰ 時事英語研究（閉講）　インテグレイティド・コミュニケーション・スキルズ（閉講） 最新英語国事情（閉講） 実践コミュニケーション英語Ⅰ(春:1-t と 1-d、秋:2-t と 2-d)(←帝塚山学院大学)
その他の活動	教科書・受験用の教材の校正と作成 常磐会学園教育センター公開講座（講師）

研究活動

専攻分野	英語教育
所属学会	全国語学教育学会（JALT）　Computer Society (affiliate of IEEE)
研究課題	英語（発音・語彙・文法）教育で利用できるソフトの研究と開発
研究キーワード	英語教育　発音　語彙　文法
著書	

書名	単/共	発行年月	発行所
CREATIVE English Communication II	共	2022 年 1 月 25 日 ←検定合格	第一学習社

論文			
タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等

発表等			
タイトル	単/共	発表年月	発表学会等

社会貢献活動等

活動内容等	

職名	教授	氏名	丸井　理恵（マルイ　リエ）	学位	修士（教育学）
校務分掌	入試部　高大接続検討委員会、教職教育研究、地域貢献プロジェクト				

教育活動

担当授業科目	音楽表現（器楽合奏）、音楽科教育法、保育表現指導、総合演習教職Ⅰ・Ⅱ 音楽演習ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB、ⅢA・ⅢB、ⅣA・ⅣB
その他の活動	教員免許状更新講習

研究活動

専攻分野	音楽（器楽）
所属学会	全国大学音楽教育学会、日本保育者養成教育学会、日本保育学会、JPTA（日本ピアノ教育連盟）
研究課題	保育・教職の現場で活用できるピアノテクニックの指導法と教材開発
研究キーワード	音楽表現、ピアノテクニック、タッチタイピング奏法、伴奏法、ML（ミュージック・ラボラトリ）システム

著書

書名	単/共	発行年月	発行所

論文

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等
音楽指導における遠隔・対面指導の機能的な併用について	単	令和４年３月	常磐会学園大学研究紀要　第 22 号
保育表現指導科目におけるリモートを活用した授業展開について	共	令和４年３月	常磐会学園大学研究紀要　第 22 号
学生アンケートを通した幼児期の表現活動についての意識調査	共	令和４年３月	常磐会学園大学研究紀要　要 22 号

発表等

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等
保育表現指導科目におけるリモートを活用した授業展開について	共	令和４年３月	保育者養成教育学会第６回研究大会
学生アンケートを通した幼児期の表現活動についての意識調査	共	令和４年３月	保育者養成教育学会第６回研究大会

社会貢献活動等

活動内容等	・全国大学音楽教育学会関西地区学会副会長 ・大阪府立夕陽丘高校同窓会「清香会」役員 ・大阪府立夕陽丘高校音楽科後援会「紫陽会」役員

職名	教授	氏名	美濃守隆（ミノ　モリタカ）	学位	修士（教育学）
校務分掌	運営部会　研究部　ＦＤ委員会　ICT 委員会　将来構想検討委員会　大学評価委員会　ハラスメント防止対策委員会　学生募集				

教育活動

担当授業科目	教育の方法・技術　理科教育法　人類と科学　教育実習事前・事後指導（幼・小）　教職実践演習　総合的な学習の時間の指導
その他の活動	

研究活動

専攻分野	教育方法　教科教育学
所属学会	日本教育メディア学会、日本教育心理学会、教育システム情報学会、日本理科教育学会
研究課題	理科教育法の研究　　情報教育の内容・方法の研究　教育課程に関する研究
研究キーワード	自然認識　ICT　教育方法　教材開発
著書	

書名	単/共	発行年月	発行所

論文			
タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等

発表等			
タイトル	単/共	発表年月	発表学会等

社会貢献活動等

活動内容等	平野区ボランティア活動部会　平野みんな食堂ネットワーク運営委員会　大阪市立平野北中学校・平野小学校学校協議会委員　平野区教育会議委員

職名	准教授	氏名	山崎　徳子（ヤマサキノリコ）	学位	博士（人間・環境学）
校務分掌	学生部、学生相談室、人権教育推進委員会、カウンセリングケア、実習指導室、こどもセンター、				

教育活動

担当授業科目	保育の心理学、子どもの理解と援助、特別支援教育論、子ども家庭支援の心理学、 保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ
その他の活動	ボランティアサークル、　自治会担当

研究活動

専攻分野	発達心理学、保育学
所属学会	保育学会、発達心理学会、質的心理学会
研究課題	子どもの自己の形成、発達障害がある子どもの自己の形成、　発達相談を通した子育て支援
研究キーワード	自閉症　自己の形成　関係発達　間主観性　発達障害
著書	

書名	単/共	発行年月	発行所
人権としての特別支援教育	共著	令和４・２	文理閣

論文	

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等

発表等	

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等
自閉症のある子どもの子育てに「家族の流儀」は どのように影響するのか(8)	共同	令和４・３	ラウンドテーブル　話題提供 日本発達心理学会

社会貢献活動等

活動内容等	通年 和歌山県橋本市図書館協議会委員 NPO 法人アサヒキャンプ　理事 堺市　早期支援員派遣事業 常磐会短期大学付属いずみがおか園　キンダ―カウンセリング 大阪市　みんな食堂ネットワーク 講師 堺市立登美丘幼稚園　研修会　（令和３・８） NPO 法人アサヒキャンプ　発達障害についての研修会　（令和４・２）

職名	准教授	氏名	山田 義則　（ ヤマダ ヨシノリ ）	学位	修士（教育学）
校務分掌	進路実習指導部				

教育活動

担当授業科目	特別支援教育論　保育実習指導Ⅰ　保育実習Ⅰ　　保育実習Ⅲ　保育実習指導Ⅲ 特別支援教育の指導　　障害児保育Ⅰ　教育心理学
その他の活動	

研究活動

専攻分野	特別支援教育　発達心理学
所属学会	日本発達障害学会　日本臨床発達心理士会　日本学校心理士会
研究課題	発達障害および自閉症スペクトラム障害児者の社会適応
研究キーワード	自閉症スペクトラム障害　発達障害　社会スキル　社会適応　行動変容　発達
著書	

書名	単/共	発行年月	発行所

論文			
タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等

発表等			
タイトル	単/共	発表年月	発表学会等

社会貢献活動等

活動内容等	通年 大阪府立住ノ江支援学校 学校運営協議会委員 大阪市立常盤幼稚園 園内委員会アドバイザー 保護者相談会 大阪市立城東幼稚園 園内委員会アドバイザー 大阪市立銅座幼稚園 園内委員会アドバイザー 大阪市立生魂幼稚園 園内委員会アドバイザー 大阪市立大江幼稚園 園内委員会アドバイザー 大阪市立味原幼稚園 園内委員会アドバイザー 大阪市立菅南幼稚園 園内委員会アドバイザー

職名	教授	氏名	山本　元子（ヤマモト　モトコ）	学位	修士（文学）
校務分掌	入試部　海外研修　入試問題作成委員 ハラスメント防止対策委員　教養教育検討委員				

教育活動

担当授業科目	小学校英語科授業実践(小学校英語)Ⅰ・Ⅱ　　グローバル教育概論　　英語音声学 異文化間コミュニケーション　　教育実習事前・事後指導（中学）　教育実習（中学）
その他の活動	常磐会学園・平野区共催　英語講座講師 大阪市教育振興基本計画グローバル事業 指導講師（英語関連）

研究活動

専攻分野	英語教育学、英語学
所属学会	日本教育学会、大学英語教育学会、関西英語教育学会、英語教育総合学会
研究課題	・小学校で英語を指導する教員を対象とした効果的な研修の構築と実践はどうあるべきか ・教員養成系大学における国際理解教育のあり方について ・日本と韓国の英語教育比較
研究キーワード	国際比較（日韓の英語教育）、小学校英語、中学校英語教育、小・中連携、教員研修、国際理解教育

著書

書名	単/共	発行年月	発行所
AERA　English　2021　（インタビュー記事） 韓国の英語力はなぜ高いのか？	共	令和３年４月	朝日新聞出版
英語の辞書使用について：―学校での指導、および、訳語の視点より―英語学論説資料第 52 号	単	令和３年６月	論説資料保存会

論文

タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等

発表等

タイトル	単/共	発表年月	発表学会等
効果的な音読指導 ―学生の口頭発表への意識向上を目指して―	共	令和３年６月	関西英語教育学会　研究大会 研究発表　（WEB 開催）
韓国の英語教育の現状 ―英語授業の実際からみる日本との比較―	単	令和３年 11 月	多摩大学　グローバル教育学部 特別講演　（WEB 開催）

社会貢献活動等

活動内容等	・英語教育研究団体 ATELAS　事務局長 ・NPO 小学校教員の英語力を伸ばす会 事務局長 ・大学英語教育学会 関西支部海外の外国語教育研究会会員 ・常磐会学園教育センター公開講座講師 ・高校生対象出張講座講師　（対象：大阪府立高校等） ・大阪市学力アップサポート事業 教員対象指導講師

職名	教授	氏名	吉田　健（ヨシダ　ケン）	学位	修士（人間科学）
校務分掌	運営部会　教務部部長　ICT 委員会　大学評価委員会　将来構想検討委員会				

教育活動

担当授業科目	情報メディア論　情報モラルと情報セキュリティ　情報社会と倫理 学校 ICT 活用　保育の ICT 活用　私たちと文化
その他の活動	

研究活動

専攻分野	教育工学
所属学会	日本教育工学会、日本科学教育学会
研究課題	学習者の能動的な学習を引き出す学習メディアの活用
研究キーワード	能動的学修、メディア、情報リテラシー
著書	

書名	単/共	発行年月	発行所

論文			
タイトル	単/共	発行年月	発表雑誌等
遠隔授業の取り組みと課題（２）	単	令和４年３月	常磐会学園大学紀要 22 号

発表等			
タイトル	単/共	発表年月	発表学会等

社会貢献活動等

活動内容等	・箕面市立北小学校校区青少年を守る会運営委員

Ⅲ　授業評価

１．授業アンケートの概要と結果

本学の自己点検・評価の一環として、教員が自身の教授技術の向上、及び担当する授業の改善に資するために学生による授業評価をアンケート調査で行っている。授業アンケートの対象となっているのは、本学で開講されている全ての授業である。しかし、実習系の授業や複数教員が共同で行っている授業の一部、及び、出席者数 10 名未満のクラスは実施していない。出席者数 10 名未満のクラスで実施しない理由は、人数が少ないと学生の匿名性が保証されず、アンケートの回答に影響する恐れがあるからである。

質問項目はすべての授業で共通となっている（表 1)。

表 1：アンケートの質問項目

質問項目	そう思う 4	ややそう思う 3	あまりそう思わない 2	そう思わない 1
Ａ．あなた自身について				
(1) 毎回の授業に熱心に取り組んだ。	4	3	2	1
(2) 毎回の授業に対して予習・復習を心がけた。	4	3	2	1
(3) 自ら発言や質問をするなど、積極的に授業に参加した。	4	3	2	1
(4) 授業を受講して、新しい知識・技能を得た。	4	3	2	1
(5) 将来に、学習した成果を活かすことが出来る。	4	3	2	1
Ｂ．　この授業について				
(6) 授業は興味や関心のもてる内容だった。	4	3	2	1
(7) 授業の難易度や進行のスピードは適切だった。	4	3	2	1
(8) テキストやプリント、映像資料等、教材の使い方が効果的だった。	4	3	2	1
(9) 教員は授業開始時刻や終了時刻をきちんと守っていた。	4	3	2	1
(10) 教員は意見の発表など学生の参加を促していた。	4	3	2	1
(11) 教員は私語などで授業を妨げる行為に適切に対応していた。	4	3	2	1
(12) 総合的に、満足のいく授業だった。	4	3	2	1

回答の選択肢については尺度を 4 段階（④そう思う③ややそう思う②あまりそう思わない①そう思わない）としている。集計は専門の業者で行い、結果は学生への成績発表後に教員に示される。また、自由記述の項目として、「1. 授業の良かったところ」「2. 改善して欲しいところ」の 2 項目を設定しており、その結果は集約され全て教員に提示される。

学生への結果の公表は、アンケート結果とともに各教員が授業改善の具体的な方法などをコメントとして掲示する方法を採っている。また、さらにアンケートや授業改善についての意見を研究部で集約している。

今年度の授業アンケートは、コロナ感染の影響で春期だけ 7 月 8 日（木）～21 日（水）に実施した。

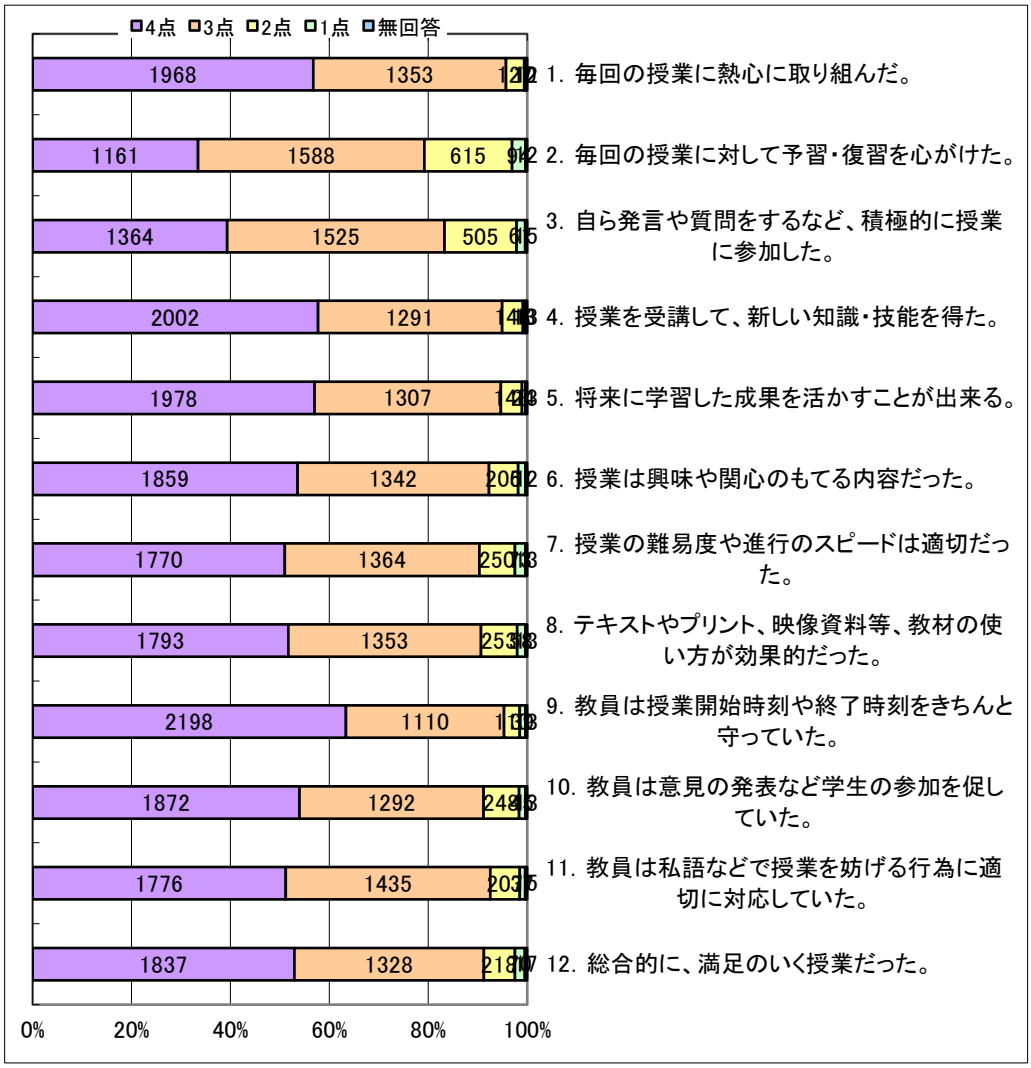
学生による授業評価アンケート

令和３年度　春期

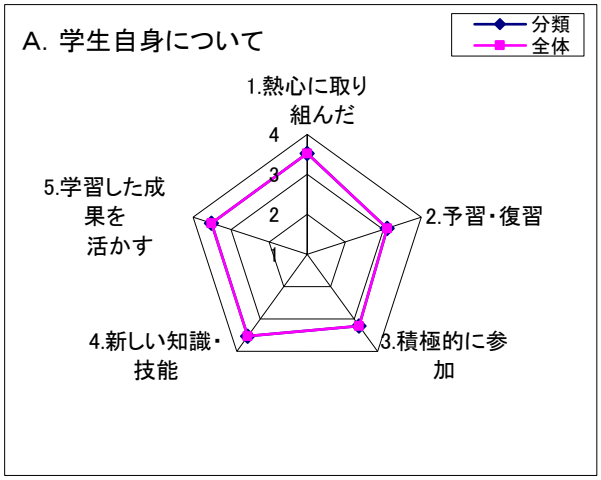
各問の平均

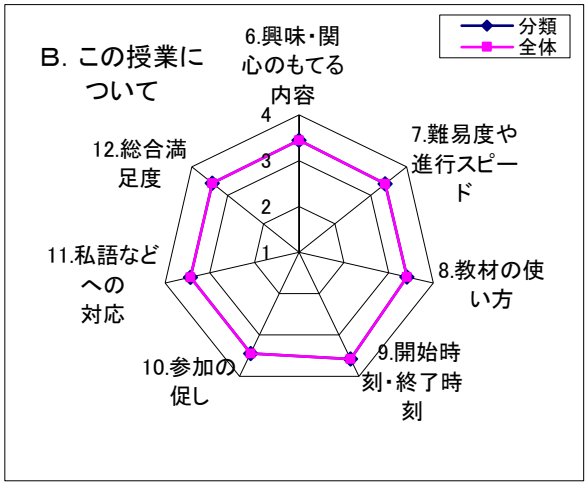
４　そう思う　３　ややそう思う　２　あまり思わない　１　思わない

（４点満点）



	今年	一昨年
1	3.53	3.44
2	3.10	3.11
3	3.21	3.25
4	3.53	3.43
5	3.52	3.44
6	3.45	3.36
7	3.40	3.33
8	3.41	3.32
9	3.58	3.50
10	3.44	3.42
11	3.43	3.39
12	3.43	3.36





２．授業アンケート結果の分析

今年度は、「秋期」のアンケート時期に急なコロナ感染蔓延により遠隔授業となったために、授業アンケートの実施ができなくなった。そのため「春期」だけの結果ではあるが、ほとんどの項目で一昨年度（昨年度は「春期」が中止）の評価を上回る結果が出ている。ほとんどの項目において「④そう思う」「③ややそう思う」という肯定的な回答が９割を超えてきている。これは、かなり高い評価と言える。これまで長い期間継続して評価結果がほとんど前年度を上回っており、評価の向上が続いている。学生の学ぶ姿勢と教員の努力が反映されている結果と言える。

その中で、「３．（学生自身の自己評価）　自ら発言や質問をするなど、積極的に授業に参加した。」がやや低下しているのは、コロナ感染の影響による「発言や話し合い活動の抑制」によるものと思われる。同様の理由と思われるが、「１０．　教員は意見の発表など学生の参加を促していた。」も、評価がほぼ横ばいである。ただ、それでも少し向上しているのは、厳しい状況の中においても多くの教員が感染防止に配慮しながら「無理のない範囲での参加体験の取り組み」を工夫する努力があったと思われる。また、大学全体が力を合わせ、できるだけ大きな教室を少人数で使い、消毒のためのグッズや横の学生との距離を空けるための標語の付いた遮蔽物をすべての机に設置するなどの、周到で丁寧な準備や工夫がなされていたことも大きい。

全ての項目の中で一番評価点が高かったのは、今年度においても「9.　教員は授業開始時刻や終了時刻をきちんと守っていた」である。この項目は、毎年一番高い項目であるが、今年も全ての項目の中で一番高い評価を得ている。学習内容と時間を十分に確保するためにも、授業開始時刻や終了時刻の厳守は各教員が意識すれば確実に実行できることであり、今後もぜひ厳格な実施を心掛けていきたい。

もちろん時間だけを確保しても内容が伴わなければ、学習効果は期待できない。しかし、今年度も２番目に高い評価を得ているのが「５．将来に学習した成果を活かすことが出来る」である。特に、本学が中心に据える保育や教育の分野においては、学びを将来に活かすという「実学」の要素が非常に大切だと考えられる。その中で「将来に生かせる」と、学生が感じる授業内容を提供できているというのは極めて重要なことである。これからも、さらなる授業内容の向上に努めたい。

学生自身の学習に対する自己評価の５項目のうち、「④そう思う」「③ややそう思う」という肯定的な回答が一番低いのが、「２．毎回の授業に対して予習・復習を心がけた」の項目である。「0.01」の低下であり横ばいともいえるが、肯定的な回答が８割程度である。昨年度は、「0.1」低下していたので、小さい変化ではあるが連続となる。ここには、自主的に意欲的に取り組むことへの学生自身の弱さも見える。しかし、過去６年間の経年変化（７年前から４項目選択・４点満点評価になった。それまでは、「どちらでもない」という項目を含めて５項目選択であり、５点満点評価であった。）を見てみると、ずっと上昇を続けてきたのがこの項目であった。それが、ここ２年上昇が止まったことは残念である。改めて、学習内容の定着と将来に生かせる力を育てることを意識し、次回の学習内容を予告し、積極的に課題を提示することでさらなる家庭学習の充実をはかるなどの努力を続けることを共通理解としたい。

その他の学生自身の学習に対する自己評価の２項目「１．毎回の授業に熱心に取り組んだ」「４．授業を受講して、新しい知識・技能を得た」「５．授業を受講して、新しい知識・技能を得た」については、全て今年度もさらに評価を上げ、肯定的な回答が９割を大きく超えている。特に４と５の項目の高評価からは、「授業をしっかり受講することによって、将来の現場で生かせる知識や技能を身に付けることができる」とほとんどの学生が感じていると言える。保育士や幼児教育・学校教育の教員を育てる大学として、あるべき教育が実践できていると考えられ、教員の今後の努力のための大きな原動力になる。

３．教員のコメントから見える、今後の授業改善について

授業アンケートの評価の対象となった本学専任教員からは、授業アンケートの結果について学生に対してのコメントや授業改善に向けての具体的な方法などが公開されている。

その中から、今年度はコロナ禍の困難な状況の中、悩みながら、工夫しながら「参加体験型の授業づくり」を実践した教員や、それに対する学生の指摘を真摯に受け止めてふりかえっている教員のコメントの中からいくつかを選び、それぞれの文章の一部を抜粋して以下に掲載しておく。

・遠隔授業期間中は YouTube に講義動画をアップし、ポートフォリオに添付した授業レジュメ・資料を参照しながら、講義動画で学修する形式をとりました。理解を深める演習または講義の予習復習となる内容を、各回の課題に設定しました。講義動画を視聴しながら授業レジュメに記入したり、対面授業の場合でも実施する演習（ワーク）を遠隔形式バージョンで課題にしたりして、学生の手元に残るレジュメ・資料やライブ感が対面授業とできるだけ変わらないよう工夫しました。今回のアンケートでは自由記述で遠隔授業についても「分かりやすかった」「やりやすかった」と評価するコメントを複数いただき、工夫したかいがありました。ただ、やはり「対面のほうが良い」というコメントもいくつかあり、グループワークの実施方法など遠隔の限界も改めて感じます。

授業全体について自由記述で、わかりやすさや授業プリントの見やすさ、進行スピードについて、評価するコメントを多くいただき、励みになりました。授業の進め方に自信を得ましたので今後も同じように取り組んでいきます。

・気になったのは、遠隔授業（春期はこれが中心でした）で「課題が難しかった」「解説を読むのがしんどかった」「you-tube も使ってほしかった」等のコメントがあったことです。

私は、ポータルサイトで課題を出して、「しっかり解説する」「一人ひとりに丁寧なコメントを書く」ことを心掛けてきました。（この科目でも、１２０人に小論文を書いてもらって、一人ひとり採点とコメントをつけ、希望者には添削して返しました。朝から晩まで大変でした。）けれど、やはりみなさんの中にポータルでの連続課題の負担感を大きく感じた人も結構いたのかもしれません。

秋期の授業は遠隔で始まるので、すべての科目をパワーポイント録音の映像を you-tube 配信でやってみることにしました。また、みなさんの反応や声に耳を傾けながら試行錯誤していくつもりです。

・この授業も昨年度春期はポートフォリオでプリント学習を行い、対面授業が許された 3 回で実技指導と試験を行いました。特に試験は幼児歌曲の移調があり、音楽理論とともに演奏指導も必要だったため、昨年はやはり音楽科教育法同様、理論をあまり理解できなかったという意見がありました。加えて実技のメインであり楽しみにしていた連弾ができなかったことが一番残念でした。

その反省もあり、今年度は教育法と同様音楽理論はプリント学習でポータルにプリントを添付、zoom でパワポの共有画面と鍵盤を映しながら進めました。11 回目以降は対面となりましたが、ピアノアンサンブル（ペアでピアノ 2 台で演奏）はペアでの合奏練習時間も残り 4 回でと限られるため、学生に発表の希望調査し、したいと答えたペアは 15 回目に発表することにしました。その結果、11 組中 8 組が希望し発表することができました。

感想でも「ピアノアンサンブルがやりがいがあってとても楽しい。一生の思い出になります！」「すごく

ためになる授業で分かりやすかった」「それぞれのペアにアドバイスをもらえてより細かい指が受けれてありがたかったです」という意見をいただきました。やはり実技では発表による達成感、充実感をいかに味わえるかも大切です。また今回全ペアで発表できなかったことはペアの組み方によるところもありましたが、授業の進め方、声掛けの仕方で改善する余地があるのではないかと考えるので、是非次年度には全員での発表を目指せるようにしたいと思います。

・授業内では、「交流教育」に関して実践的に学んでもらえたいという私自身の思い・ねらいから、遠隔授業の中でも、頻繁にグループ学習の形態を変更したり、また判断の分かれるようなテーマや、すぐに答えの出ないような課題を出すことが少なくなった。しかしながら、そのような課題に対しても参加学生は常に前向きに学年の垣根を越えて積極的に交流する機会を持って、意欲的に取り組んでくれた姿が非常に印象的である。

また授業中にわからなかった点や不明な点、授業方法に対する意見や疑問等についても毎時授業終了時に回収するアンケート用紙に書いてくれていた。授業に対して非常に前向きに取り組んでくれる学生が多く見られたことも、授業者として、大変刺激を受けるとともに、1回1回の授業に、とてもいい緊張感を思って担当させて頂けた。

一方で、自分自身の課題として感じる点は少なくない。アンケートのコメントにおいても、授業内でする作業の「ねらいがわからない」といった指摘もいただいた。学生に、作業等の目的をしっかりと伝える工夫や声掛け等が足りなかったと反省している。

次年度は“なぜ学ぶのか”“なぜそれをするのか”といった、課題の意味や学ぶ目的やねらいを全学生が把握できるよう、伝え方や声掛け等を工夫し授業改善を行っていきたいと考える。

・教養科目的な位置づけであり、大学の学びの中でメディアを利用するために知っておきたいことを包括的に学んでもらうように授業を組み立てていた。その際、できるだけ興味を持ってもらえるよう、画像や映像を適宜使用してより具体的にイメージしてもらえるようにしていた。

アンケートの結果を見るとそのような点はある程度受講生に受け入れられていたように感じている。また、授業動画を Youtube でアップロードしていたが、画像や映像の視聴は十分にできていたようで安心した。

今後はオンラインであってももう少し受講生の意見や感想を紹介したり、意見交換できるような仕組みも取り入れていきたい。

・昨年、リモート期間はすべて YouTube 視聴後、課題に取り組むという形にしましたが、どうしても、伝えたいことが届いているかどうか自信が持てなかったので今年はすべて時間割通りの zoom の授業にしました。zoom の顔出しがいやだったという意見が一つだけありましたが、対人援助の授業ですので、私はこのまま続けたいと思います。「オンラインでも対面授業と変わらないクオリティだった」と書いてくれた人本当にありがとう。自分が受ける側になった経験からも、これは受ける側の姿勢が大きくかかわっていると思います。試験の解答をからも、例年通りの達成度だと考えます。

受講生の数、組み合わせによって評価がずいぶんちがいます。意見交換がいいという意見が毎年中心ですが、ここがまた授業の構成メンバーによって大きく左右されるところで、これは私の弱点です。どんなメンバーであっても話が深まるシステム、テーマをさらに考えなければいけません。

・前半は、リモートで課題の提出で行った。記述の欄に、「オンラインの時は、課題がすごく大変だったけど、一生懸命やった分、先生がしっかりコメントしてくれたので頑張れました。でも、やはり対面がいいなと思いました」という文章がありました。みなさんがとても誠実にレポートを届けてくれるので、私も一生懸命に返信をしました。一人の人に多くの時間を費やすこともありました。それだけに、一人だけでしたが、このように書いてもらえて、労が報われた気がして嬉しいです。

対面の授業では、ディスタンス、マスクなどをしながら、話し合いの場面も取り入れました。「幼児理解が、教育の基礎になる」「主体性を育てる」を掲げながら授業に取り組みました。

・この授業では比較的シンプルで分かりやすいテキストを使用した。そのテキストの内容をもとにグループで分担して調べまとめたうえで、グループ内での教え合いをした。いわゆるジクソー法的な学習スタイルだった。また分担内容ごとにパワポスライドにまとめて発表を行った。

内容を教師が教えるというスタイルからほぼ学生自身が学び取り、それを他者との協働の中から深めていく授業スタイルを実践した。協同学習に基づく授業づくりを研究しているが、その研究の成果の実践ができたと感じる。

学生からの評価も比較的よく、特に活動的な学習スタイルに対しての評価は高かった。今後は、特に大学に至っては教師が知識を教えるというスタイルから、基本的な内容は学生自身、もしくは学生相互に学び、そこからその知識を生かして学びを深めていく授業スタイルを追求していくべきであろうと感じた。この教育制度論は、基本的な知識の理解に関して学生主体の活動から学べたことは良かったが、ここからさらに学生相互の関わり合い活動を通して深めていけるような授業を目指していきたい。

・昨年度のオンライン授業の反省を元に Zoom での授業の際にもグループディスカッションを取り入れたり、パワーポイントを取り入れたりと工夫しました。そのことで、一方通行ではなく、学生の皆さんも参加できる形で取り組めたことは、良かったです。

私は保育現場を経験している教員として、学生に役立つ授業を行っていきたいと思います。「理論」と「実践」が学べる授業が、私の目指すところです。その為に自分自身の学びを深めて、しっかりと「理論」も学生に伝えていけるように、努力したいと思います。

昨年度の私はコロナ渦では、できないことばかりに目が行きました。しかし、今回の授業ではオンライン授業の中でもここまでできるのか思うことが多くありました。学生同士で話し合ったり、学習を進　　めたりしていく姿に感心しました。またオンラインだからこそ、グルーでの話し合いがすぐにできる、録画しておいて欠席者がその授業を後から見るころができる、自分で課題のスケジュールを組める、時間がある分自分の興味があることに取り組めるなど良い点もあるように、今年度は感じることができました。

ないものばかりを嘆くのではなく、今できることから学生のみなさんにとってのより良いベストな方法を今後も考えて工夫して授業を行っていきたいと思います。

Ⅳ　キャンパスライフの調査

「キャンパスライフに関する調査」は、本学に在学している学生の学生生活に対する満足度を図り、要望などを知ることを目的に毎年１回実施している。昨年度まで、アンケート用紙に記入して提出する形式であったのが、今年度からオンライン回答に変更した。そのため期間も以前より長く設定したが、回答数の大きな減少が見られた。特に３・４回生の回答率が低下し、全体的に記述による回答も減少した。来年度は、より多くの学生からの回答を得られるように工夫したい。

実施については、全学生を対象に 12 月 1 日（水）～22 日（水）の期間で行った。アンケートの構成は「1. 今年度の授業科目、カリキュラムや履修登録について」「2. 本学での学生生活について」「3. 本学の施設・設備について」「4. 本学の好きなところ、満足なところ」となっている。「1.」～「3.」は「あてはまる」～「あてはまらない」を「④」「③」「②」「①」の 4 段階の選択肢を選ぶ形式の質問と、それぞれに関する要望について書く自由記述形式の質問を用意している。また「4.」は自由記述形式の質問でのみ構成している。

回答者数は 1 回生 72 名、2 回生 45 名、3 回生 39 名、4 回生 36 名、合計 192 名となっている。

このアンケートの結果については集計後全教職員に対して示され、各部署で関係する箇所のデータを分析し、業務に生かすように活用されている。また、学生にも結果の概要と主な要望についての見解や取り組み状況等について２月に全員に広報している。

１．今年度の授業科目、カリキュラムや履修登録について

この項目では今年度の授業科目、カリキュラムや履修登録について尋ねている。質問項目は以下に示すようになっている。

(1) 学生参加形式の授業が多かった。
(2) 予習や復習が必要な授業が多かった。
(3) 方法や技術に工夫をしている授業や教員が多かった。
(4) 興味や関心を持てる授業が多く設定されていた。
(5) 計画的な履修が可能となるような時間割だった。
(6) 履修登録は円滑な手続きができた。

結果は次に示す表のようになった。今年度の回答数が左に、昨年度の回答数が右に示されている。

各設問の選択肢（ ④あてはまる　③ややあてはまる　②あまりあてはまらない　①あてはまらない ）

① 学生参加形式の授業が多かった

＜今年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	74	95	20	3
	38.5%	49.5%	10.4%	1.6%
１回生（７２名）	26	38	8	0
	36.1%	52.8%	11.1%	0.0%
２回生（４５名）	22	22	1	0
	48.9%	48.9%	2.2%	0.0%
３回生（３９名）	21	17	1	0
	53.8%	43.6%	2.6%	0.0%
４回生（３６名）	5	18	10	3

＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（３０５名）	67	159	68	11
	22.0%	52.1%	22.3%	3.6%
1 回生（９３名）	19	41	29	4
	20.4%	44.1%	31.2%	4.3%
2 回生（５５名）	14	31	9	1
	25.5%	56.4%	16.4%	1.8%
3 回生（８３名）	17	50	13	3
	20.5%	60.2%	15.7%	3.6%
4 回生（７４名）	17	37	17	3

	13.9%	50.0%	27.8%	8.3%		23.0%	50.0%	23.0%	4.1%

② 予習や復習が必要な授業が多かった

＜今年度＞	④	③	②	①	＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	25	88	72	7	全体（３０６名）	33	123	135	15
	13.0%	45.8%	37.5%	3.6%		10.8%	40.2%	44.1%	4.9%
１回生（７２名）	13	29	28	2	１回生（９６名）	8	37	46	5
	18.1%	40.3%	38.9%	2.8%		8.3%	38.5%	47.9%	5.2%
２回生（４５名）	6	22	16	1	２回生（５３名）	10	19	22	2
	13.3%	48.9%	35.6%	2.2%		18.9%	35.8%	41.5%	3.8%
３回生（３９名）	4	24	11	0	３回生（８３名）	6	37	35	5
	10.3%	61.5%	28.2%	0.0%		7.2%	44.6%	42.2%	6.0%
４回生（３６名）	2	13	17	4	４回生（７４名）	9	30	32	3
	5.6%	36.1%	47.2%	11.1%		12.2%	40.5%	43.2%	4.1%

③ 方法や技術に工夫をしている授業や教員

＜今年度＞	④	③	②	①	＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	38	109	37	8	全体（３０２名）	52	168	76	6
	19.8%	56.8%	19.3%	4.2%		17.2%	55.6%	25.2%	2.0%
１回生（７２名）	21	37	12	2	１回生（９５名）	19	52	23	1
	29.2%	51.4%	16.7%	2.8%		20.0%	54.7%	24.2%	1.1%
２回生（４５名）	8	29	8	0	２回生（５１名）	10	25	14	2
	17.8%	64.4%	17.8%	0.0%		19.6%	49.0%	27.5%	3.9%
３回生（３９名）	7	27	4	1	３回生（８２名）	8	44	27	3
	17.9%	69.2%	10.3%	2.6%		9.8%	53.7%	32.9%	3.7%
４回生（３６名）	2	16	13	5	４回生（７４名）	15	47	12	0
	5.6%	44.4%	36.1%	13.9%		20.3%	63.5%	16.2%	0.0%

④ 興味や関心を持てる授業が多い

＜今年度＞	④	③	②	①	＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	37	114	34	7	全体（３０２名）	58	157	79	8
	19.3%	59.4%	17.7%	3.6%		19.2%	52.0%	26.2%	2.6%
１回生（７２名）	21	38	10	3	１回生（９２名）	26	48	15	3
	29.2%	52.8%	13.9%	4.2%		28.3%	52.2%	16.3%	3.3%
２回生（４５名）	5	32	8	0	２回生（５４名）	11	31	10	2
	11.1%	71.1%	17.8%	0.0%		20.4%	57.4%	18.5%	3.7%
３回生（３９名）	9	27	2	1	３回生（８２名）	9	37	34	2
	23.1%	69.2%	5.1%	2.6%		11.0%	45.1%	41.5%	2.4%
４回生（３６名）	2	17	14	3	４回生（７４名）	12	41	20	1
	5.6%	47.2%	38.9%	8.3%		16.2%	55.4%	27.0%	1.4%

⑤ 計画的な履修が可能となるような時間割

＜今年度＞	④	①	①	①	＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	37	86	48	21	全体（３００名）	50	147	79	24

	19.3%	44.8%	25.0%	10.9%		16.7%	49.0%	26.3%	8.0%
１回生（７２名）	19	35	12	6	１回生（９３名）	21	49	19	4
	26.4%	48.6%	16.7%	8.3%		22.6%	52.7%	20.4%	4.3%
２回生（４５名）	3	18	20	4	２回生（５１名）	9	27	11	4
	6.7%	40.0%	44.4%	8.9%		17.6%	52.9%	21.6%	7.8%
３回生（３９名）	9	19	6	5	３回生（８２名）	7	34	31	10
	23.1%	48.7%	15.4%	12.8%		8.5%	41.5%	37.8%	12.2%
４回生（３６名）	6	14	10	6	４回生（７４名）	13	37	18	6
	16.7%	38.9%	27.8%	16.7%		17.6%	50.0%	24.3%	8.1%

② 履修登録は円滑な手続きができた

＜今年度＞	④	③	②	①	＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	49	92	37	14	全体（３０２名）	58	158	65	21
	25.5%	47.9%	19.3%	7.3%		19.2%	52.3%	21.5%	7.0%
１回生（７２名）	25	33	11	3	１回生（９５名）	23	50	19	3
	34.7%	45.8%	15.3%	4.2%		24.2%	52.6%	20.0%	3.2%
２回生（４５名）	7	25	8	5	２回生（５１名）	10	25	12	4
	15.6%	55.6%	17.8%	11.1%		19.6%	49.0%	23.5%	7.8%
３回生（３９名）	10	19	6	4	３回生（８２名）	11	42	20	9
	25.6%	48.7%	15.4%	10.3%		13.4%	51.2%	24.4%	11.0%
４回生（３６名）	7	15	12	2	４回生（７４名）	14	41	14	5
	19.4%	41.7%	33.3%	5.6%		18.9%	55.4%	18.9%	6.8%

＜授業科目、カリキュラムや履修登録＞の各質問項目については、数年前から全ての項目において肯定的な回答（「あてはまる」「ややあてはまる」）の割合が継続的に増加していたが、一昨年度・昨年度と全体的には横ばいになっていた。それが、今年度また上昇傾向が見られるようになった。

「参加体験（アクティブラーニング）」に係る項目について、昨年度はコロナ感染防止の視点から遠隔授業になったり、大学での授業でもグループ討議が難しくなった中で評価が下がっていたが、今年度は大きく回復している。今年度も、遠隔授業の時期が長くあった中で、各教員の工夫が実ったものと思われる。肯定的な回答の割合が 89.0%あり、「授業の工夫がある」や「興味関心が持てる」等の指導方法などに関する項目についても肯定回答が 75%を超えており、ここにも教員の努力がうかがえる。昨年度は、学生の中にコロナ感染を恐れる声もあったが、今年度はそれもなくなっている。事務室や保健室が一体となっての、各教室の着席制限の表示の工夫や机の配置などの取り組みの成果でもあると考えられる。

時間割や履修登録の項目については、3 年前から否定的な回答（「あまりあてはまらない」「あてはまらない」）の割合がアンケート全体の中でも極めて多かったが、昨年度・今年度と継続して評価は改善されてきている。しかし、自由記述の内容を見ると、以前からと同じ内容の不満や要望として「同じ時間に取るべき科目が被っている」「抽選をやめてほしい」「開講数を増やしてほしい・受講者の制限数を増やしてほしい」「計画的な履修ができない」等が書かれている。学生自身の問題も一部あるとは考えられるが、改善できること必要のあるものから、学生の声に応える取り組みが継続して求められる。

２．本学での学生生活について

この項目では本学での学生生活について尋ねている。質問項目は以下に示すようになっている。

(1) 研究室方式なので、気軽に教員と話し合っている。
(2) 事務職員の対応に満足している。
(3) 休講・補講などの情報が分りやすく提供されている。
(4) 心身の健康管理のための相談室や保健室は利用しやすい。
(5) 採用試験対策の講座などのサポート体制が充実している。
(6) 実習やボランティアなどへの支援体制が充実している。

結果は次に示す表のようになっている。

各設問の選択肢（ ④あてはまる　③ややあてはまる　②あまりあてはまらない　①あてはまらない ）

① 気軽に教員と話し合っている

＜今年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	110	63	16	3
	57.3%	32.8%	8.3%	1.6%
１回生（７２名）	45	22	4	1
	62.5%	30.6%	5.6%	1.4%
２回生（４５名）	19	19	5	2
	42.2%	42.2%	11.1%	4.4%
３回生（３９名）	23	12	4	0
	59.0%	30.8%	10.3%	0.0%
４回生（３６名）	23	10	3	0
	63.9%	27.8%	8.3%	0.0%

＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（３０６名）	163	115	20	8
	53.3%	37.6%	6.5%	2.6%
１回生（９４名）	36	45	9	4
	38.3%	47.9%	9.6%	4.3%
２回生（５４名）	27	19	6	2
	50.0%	35.2%	11.1%	3.7%
３回生（８４名）	45	34	3	2
	53.6%	40.5%	3.6%	2.4%
４回生（７４名）	55	17	2	0
	74.3%	23.0%	2.7%	0.0%

① 事務職員の対応に満足している

＜今年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	99	75	14	4
	51.6%	39.1%	7.3%	2.1%
１回生（７２名）	43	23	4	2
	59.7%	31.9%	5.6%	2.8%
２回生（４５名）	15	21	7	2
	33.3%	46.7%	15.6%	4.4%
３回生（３９名）	23	14	2	0
	59.0%	35.9%	5.1%	0.0%
４回生（３６名）	18	17	1	0
	50.0%	47.2%	2.8%	0.0%

＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（３０５名）	112	147	36	10
	36.7%	48.2%	11.8%	3.3%
１回生（９２名）	32	49	11	0
	34.8%	53.3%	12.0%	0.0%
２回生（５４名）	19	28	5	2
	35.2%	51.9%	9.3%	3.7%
３回生（８４名）	28	38	12	6
	33.3%	45.2%	14.3%	7.1%
４回生（７５名）	33	32	8	2
	44.0%	42.7%	10.7%	2.7%

③ 休講・補講などの情報が分りやすく提供

＜今年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	57	75	49	11
	29.7%	39.1%	25.5%	5.7%

＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（３０６名）	69	124	87	26
	22.5%	40.5%	28.4%	8.5%

１回生（７２名）	28	34	9	1	１回生（９３名）	26	45	18	4
	38.9%	47.2%	12.5%	1.4%		28.0%	48.4%	19.4%	4.3%
２回生（４５名）	10	16	15	4	２回生（５４名）	14	21	15	4
	22.2%	35.6%	33.3%	8.9%		25.9%	38.9%	27.8%	7.4%
３回生（３９名）	13	16	9	1	３回生（８４名）	9	25	36	14
	33.3%	41.0%	23.1%	2.6%		10.7%	29.8%	42.9%	16.7%
４回生（３６名）	6	9	16	5	４回生（７５名）	20	33	18	4
	16.7%	25.0%	44.4%	13.9%		26.7%	44.0%	24.0%	5.3%

④　相談室や保健室は利用しやすい

＜今年度＞	④	③	②	①	＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	88	75	25	4	全体（３０５名）	118	136	41	10
	45.8%	39.1%	13.0%	2.1%		38.7%	44.6%	13.4%	3.3%
１回生（７２名）	36	27	7	2	１回生（９４名）	28	40	21	5
	50.0%	37.5%	9.7%	2.8%		29.8%	42.6%	22.3%	5.3%
２回生（４５名）	16	22	7	0	２回生（５４名）	23	22	7	2
	35.6%	48.9%	15.6%	0.0%		42.6%	40.7%	13.0%	3.7%
３回生（３９名）	20	16	3	0	３回生（８４名）	35	39	7	3
	51.3%	41.0%	7.7%	0.0%		41.7%	46.4%	8.3%	3.6%
４回生（３６名）	16	10	8	2	４回生（７３名）	32	35	6	0
	44.4%	27.8%	22.2%	5.6%		43.8%	47.9%	8.2%	0.0%

⑤　採用試験対策のサポート体制が充実

＜今年度＞	④	③	②	①	＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	66	104	21	1	全体（３０２名）	71	186	40	5
	34.4%	54.2%	10.9%	0.5%		23.5%	61.6%	13.2%	1.7%
１回生（７２名）	30	38	4	0	１回生（９２名）	18	56	18	0
	41.7%	52.8%	5.6%	0.0%		19.6%	60.9%	19.6%	0.0%
２回生（４５名）	14	25	6	0	２回生（５３名）	15	32	5	1
	31.1%	55.6%	13.3%	0.0%		28.3%	60.4%	9.4%	1.9%
３回生（３９名）	11	23	5	0	３回生（８４名）	16	53	12	3
	28.2%	59.0%	12.8%	0.0%		19.0%	63.1%	14.3%	3.6%
４回生（３６名）	11	18	6	1	４回生（７３名）	22	45	5	1
	30.6%	50.0%	16.7%	2.8%		30.1%	61.6%	6.8%	1.4%

⑥　実習などへの支援体制が充実

＜今年度＞	④	③	②	①	＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	67	92	26	7	全体（３０３名）	68	172	54	9
	34.9%	47.9%	13.5%	3.6%		22.4%	56.8%	17.8%	3.0%
１回生（７２名）	30	33	6	3	１回生（９１名）	23	44	22	2
	41.7%	45.8%	8.3%	4.2%		25.3%	48.4%	24.2%	2.2%
２回生（４５名）	14	19	10	2	２回生（５４名）	12	30	10	2
	31.1%	42.2%	22.2%	4.4%		22.2%	55.6%	18.5%	3.7%

３回生（３９名）	12	25	2	0
	30.8%	64.1%	5.1%	0.0%
４回生（３６名）	11	15	8	2
	30.6%	41.7%	22.2%	5.6%

３回生（８４名）	16	48	15	5
	19.0%	57.1%	17.9%	6.0%
４回生（７４名）	17	50	7	0
	23.0%	67.6%	9.5%	0.0%

＜本学での学生生活＞の各質問項目については、すべての項目で評価の向上が見られる。特に、肯定的な回答の中の、「あてはまる」という積極的な評価の割合が大きく増加している。

「気軽に教員と話し合っている」という項目は、コロナの影響で遠隔授業も多くあったにもかかわらず、今年も 90%の学生が肯定しており、例年アンケート全体の中で一番評価の高い状態を維持してきた。特に、３、４回生の評価が極めて高いのは、進路支援に担当教員はもちろんゼミの教員も含めて努力した結果と考えられる。自由記述の内容を見ても、「いつも親身になってくれる先生が、とても大学の好きなところです」「先生方が親身に相談に乗ってくれて、親切丁寧です」「先生に相談しやすい」「先生と学生の距離が本当に近い」等の声が多くある。

「事務職員の対応への満足」も、昨年度に続いてさらに大きく向上している。特に、「あてはまる」という積極的な評価の割合が、大きく増加し 50%を超えた。かつて厳しく評価されていた状態から継続して評価が高くなり、今では全体の中でも特に高い評価の項目になっている。自由記述にも、「職員の方の対応がよい」「職員の方がとても優しい、とても面倒見よくしてくれる」「自分のことを気にかけてくれる職員・先生が多くいる」等の内容がたくさん書かれている。一昨年・昨年と評価の向上が著しかった「相談室・保健室の利用」の項目も継続して評価が向上し、「あてはまる」という積極的な評価の割合が増加している。少人数制の良さを生かして、各教職員がきめ細やかに学生と接していることがうかがわれる。

「採用試験対策サポート」についても評価が向上している。１回生にも満足度が高いのは、基礎演習等でも進路の講演会や情報提供を行い、公立幼保受験の勉強会や春期夏期の「教採対策講座」の実施と参加呼びかけなどの取り組みが評価された結果と考えられる。これらは、進路実績の結果にも結び付いていると思われる。

これらの項目は、すべて学生に直接かかわる担当者一人一人の努力の結果が反映されるものであり、日常的な学生支援の実践がしっかりできていることの表れと思われる。ただ、「休講・補講などの情報」の伝達については、やや向上しているもののまだ評価が低く、自由記述でも「休講・補講情報提供の迅速化」の要望が書かれていた。まず、教員が休講等の連絡を教学課へできるだけ早くすることが求められる。

３．本学の施設・設備について

この項目では本学での学生生活について尋ねている。質問項目は以下に示すようになっている。

(1) 図書館の施設・設備に満足している。
(2) 学生食堂の施設・内容に満足している。
(3) 講義室には学習に集中できる設備が整っている。
(4) 友人と過ごしたり、休憩したりするスペースが充実している。
(5) 自習のためのスペースや環境が整っている。
(6) ピアノのスキルアップのための施設や設備が整っている。

結果は次に示す表のようになっている。

各設問の選択肢（ ④あてはまる　③ややあてはまる　②あまりあてはまらない　①あてはまらない ）

① 図書館の施設・設備に満足している

＜今年度＞	④	②	①	①
全体（１９２名）	87	84	12	9
	45.3%	43.8%	6.3%	4.7%
１回生（７２名）	29	30	7	6
	40.3%	41.7%	9.7%	8.3%
２回生（４５名）	24	18	1	2
	53.3%	40.0%	2.2%	4.4%
３回生（３９名）	17	22	0	0
	43.6%	56.4%	0.0%	0.0%
４回生（３６名）	17	14	4	1
	47.2%	38.9%	11.1%	2.8%

＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（３０３名）	113	149	35	6
	37.3%	49.2%	11.6%	2.0%
１回生（９２名）	37	39	15	1
	40.2%	42.4%	16.3%	1.1%
２回生（５４名）	19	26	7	2
	35.2%	48.1%	13.0%	3.7%
３回生（８４名）	28	47	6	3
	33.3%	56.0%	7.1%	3.6%
４回生（７３名）	29	37	7	0
	39.7%	50.7%	9.6%	0.0%

① 学生食堂の施設・内容に満足している

＜今年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	62	68	42	20
	32.3%	35.4%	21.9%	10.4%
１回生（７２名）	25	22	15	10
	34.7%	30.6%	20.8%	13.9%
２回生（４５名）	19	19	6	1
	42.2%	42.2%	13.3%	2.2%
３回生（３９名）	7	18	12	2
	17.9%	46.2%	30.8%	5.1%
４回生（３６名）	11	9	9	7
	30.6%	25.0%	25.0%	19.4%

＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（３０５名）	86	139	65	15
	28.2%	45.6%	21.3%	4.9%
１回生（９４名）	39	37	14	4
	41.5%	39.4%	14.9%	4.3%
２回生（５４名）	14	24	12	4
	25.9%	44.4%	22.2%	7.4%
３回生（８３名）	15	35	30	3
	18.1%	42.2%	36.1%	3.6%
４回生（７４名）	18	43	9	4
	24.3%	58.1%	12.2%	5.4%

③ 講義室には学習に集中できる設備が整う

＜今年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	68	97	25	2
	35.4%	50.5%	13.0%	1.0%
１回生（７２名）	32	31	8	1
	44.4%	43.1%	11.1%	1.4%
２回生（４５名）	14	26	5	0
	31.1%	57.8%	11.1%	0.0%
３回生（３９名）	13	23	3	0
	33.3%	59.0%	7.7%	0.0%
４回生（３６名）	9	17	9	1
	25.0%	47.2%	25.0%	2.8%

＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（３０３名）	84	174	42	3
	27.7%	57.4%	13.9%	1.0%
１回生（９２名）	38	45	9	0
	41.3%	48.9%	9.8%	0.0%
２回生（５４名）	15	28	9	2
	27.8%	51.9%	16.7%	3.7%
３回生（８２名）	16	51	14	1
	19.5%	62.2%	17.1%	1.2%
４回生（７５名）	15	50	10	0
	20.0%	66.7%	13.3%	0.0%

④ 休憩したりするスペースが充実

＜今年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	94	64	31	3

＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（３０２名）	98	143	53	8

	49.0%	33.3%	16.1%	1.6%		32.5%	47.4%	17.5%	2.6%
１回生（７２名）	47	17	8	0	１回生（９２名）	42	37	12	1
	65.3%	23.6%	11.1%	0.0%		45.7%	40.2%	13.0%	1.1%
２回生（４５名）	20	19	6	0	２回生（５３名）	15	23	11	4
	44.4%	42.2%	13.3%	0.0%		28.3%	43.4%	20.8%	7.5%
３回生（３９名）	17	17	4	1	３回生（８４名）	18	47	16	3
	43.6%	43.6%	10.3%	2.6%		21.4%	56.0%	19.0%	3.6%
４回生（３６名）	10	11	13	2	４回生（７３名）	23	36	14	0
	27.8%	30.6%	36.1%	5.6%		31.5%	49.3%	19.2%	0.0%

⑤　自習のためのスペースや環境が整っている

＜今年度＞	④	③	②	①	＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	97	68	22	5	全体（３０５名）	110	158	33	4
	50.5%	35.4%	11.5%	2.6%		36.1%	51.8%	10.8%	1.3%
１回生（７２名）	46	20	5	1	１回生（９３名）	45	38	10	0
	63.9%	27.8%	6.9%	1.4%		48.4%	40.9%	10.8%	0.0%
２回生（４５名）	20	21	4	0	２回生（５６名）	21	27	5	3
	44.4%	46.7%	8.9%	0.0%		37.5%	48.2%	8.9%	5.4%
３回生（３９名）	21	13	4	1	３回生（８２名）	23	47	11	1
	53.8%	33.3%	10.3%	2.6%		28.0%	57.3%	13.4%	1.2%
４回生（３６名）	10	14	9	3	４回生（７４名）	21	46	7	0
	27.8%	38.9%	25.0%	8.3%		28.4%	62.2%	9.5%	0.0%

⑥　ピアノのスキルアップのための施設や設備

＜今年度＞	④	③	②	①	＜昨年度＞	④	③	②	①
全体（１９２名）	120	58	12	2	全体（３０５名）	145	137	19	4
	62.5%	30.2%	6.3%	1.0%		47.5%	44.9%	6.2%	1.3%
１回生（７２名）	53	17	1	1	１回生（９１名）	52	34	5	0
	73.6%	23.6%	1.4%	1.4%		57.1%	37.4%	5.5%	0.0%
２回生（４５名）	28	13	4	0	２回生（５５名）	29	21	4	1
	62.2%	28.9%	8.9%	0.0%		52.7%	38.2%	7.3%	1.8%
３回生（３９名）	22	15	2	0	３回生（８３名）	31	43	6	3
	56.4%	38.5%	5.1%	0.0%		37.3%	51.8%	7.2%	3.6%
４回生（３６名）	17	13	5	1	４回生（７６名）	33	39	4	0
	47.2%	36.1%	13.9%	2.8%		43.4%	51.3%	5.3%	0.0%

＜本学の施設・設備＞の各質問項目については、ほとんどの項目で評価の向上が見られる。特に、肯定的な回答の中の、「あてはまる」という積極的な評価の割合が大きく増加している。

施設や設備については肯定的な回答が多くの項目で85%～90%程度あり、「あてはまらない」という強い否定的な回答が極めて少ない。かつて本学の課題の一つであった施設設備の充実化が進み、今年度はその利用の方法や範囲についての利便性・柔軟性をさらに高めた効果が反映していると思われる。具体的には、学生の要望に応じた「自習スペースの拡大」「自主学習に使えるパソコンの増加」や「ピアノ練習の手続きの簡略化」な

どである。そして、この施設設備への満足度の向上には「清掃が行き届き、いつもきれいな状態が保たれている」ことへの、学生からの感謝の思いがあると考えられる。

その中で「学生食堂の施設・内容」への満足度が、施設設備の中で昨年度に続き低い。特に自由記述では、具体的にいろいろな不満が述べられている。それは、メニュー等の営業形態に関してのものである。大学として、業者と一緒に改善策を検討することも必要である。

自由記述では、毎年多く書かれている「wi-fi を使える環境の要望」とともに、「通学バスが短大だけにあることへの不満」が多く見られた。一つ一つの課題について、「しない」のか「できない」のか、その理由を丁寧に学生に説明していく必要がある。

４．その他、本学のいいところ等の自由記述

ここでは自由記述で、「その他、本学のいいところ等」について聞いている。

記述内容からは、「教員との関係、話しやすさ、距離の近さ」「職員の親身で優しい対応」「少人数制の良さ」「施設の充実と清潔さ」について多くの学生が評価し満足していることがわかる。

本学が「小規模」な大学ゆえの「少人数制」をうまく活かした人的・物的環境を作り、学生生活の充実を図っていることが実っていると感じる。なかでも、「少人数制」は本年度もコロナ禍においても大学で対面授業を多く実施できたことに結びついていた。また、教職員だけでなく、警備の方、清掃担当の方、食堂の従業員の方等学生にかかわる多くの人の柔らかい雰囲気の中で「居心地よく」学べる環境が作られているとも感じることができる。しかし、感染防止対策の徹底のために、これまで多く挙げられてきた「友人・先輩後輩との良好な人間関係」についての記述が本年度も少なくなったままなのは、残念である。

Ｖ　ＦＤ・ＳＤ活動

１．遠隔授業の実施に関する研修会

今年度はコロナ感染防止のため、計画されていた教員全体での授業力向上研修は中止とした。

２．公開授業による授業研究

公開授業は、12 月 6 日～12 月 17 日の間に全ての教員が通常授業を 2 回以上公開する形で実施した。各教員の公開予定授業の内容と日程の一覧表を配布し、それぞれの教員が自分の空き時間に合わせて自由に見学する形で行った。その期間に、公開された授業に対して各教員の見学が実施され、19 名の教員から見学した 39 の授業への感想・コメントが提出された。提出された感想の中からいくつかを選び、それぞれの文章の一部を抜粋して以下に掲載しておく。

・この課題について、教員が一斉授業として講義をしていたなら、誰も自分の課題だと感じないでしょう。私などは、一人で話す場面が多くその度に、学生たちは疲れて眠る人もいます。眠らなくても、知識を受け入れるだけの授業になっています。私もこのようなあらかじめ学生に課題を出し、そのことについて話し合う授業を計画したいと思いました。

小集団の討議の後に、出された課題についてグループの代表が報告し、全体で共有する場が設定されています。学生からは、「いざという時に、どこに相談にいこうかと困った時に、『今、こんな取組みがあります』と情報提供しているアプリがある」という紹介の内容も。

「赤ちゃんの駅」について説明をする学生がいると、ひとり親家庭に視点を当てる「堺フォーラム広場」について説明する学生もいました。

先生は全体で共有した後に、「市町村が子育て支援に取り組む意義は、またどういう目的があるのか」と主となる課題を提示されました。個から小集団の討議へ、更に全体で共有化し再び個の振り返りへと、「静から動へ、再び静へ」とつながれた授業でした。

「自己責任」ということばのもとに、子育てで孤立化し悲劇が起きている現実があります。市町村という行政が子育てにどう向き合っていくのか、「魅力ある街づくり」とは何かを、学生たちは我が身に引き寄せて考えていました。

アクティブラーニングには、ただ話し合ったり活動したりするだけでなく、自分一人で考える場面が必要です。時には、沈黙することも大事なことです。文科省は、あえて「深い学び」という表現をしています。

保護者にどのような支援が必要なのか、学生たちが現場に立った時にどう考えるべきなのかなどの指針を持てる授業だと思いました。

・進化する映像について考えさせていました。「このテーマで何を考えるべきなのか」「自分の考えを論じる観点は何か」「授業テーマに受講者の関心をどう向けるのか」という点において、先生は映像を随所に見せることで迫っておられました。地デジから今の高性能なテレビジョンに至るまでの歴史を、今回の授業で見せていただきました。刻々と変わっていく情報伝達方法を改めて振り返り、昔人間の私は、身につまされました。

研究論文や著作本から、視聴覚メディアの効果とその特徴をとらえ、実際の目よりも上回る映像がこれから一般利用者にとってどこまでの必要性があるのか‥という疑問に迫るものでした。かたや医学や博物

館の資料としてはこれから欠かせない映像の高度化の必要性も感じられる内容でした。
　授業終了後、1 回目から言葉の伝達‥‥文字の伝達‥‥と太古の時代からの変遷をたどり、今回 11 回目のこの授業であると先生からお聞きしました。スケールの大きさにびっくりしました。学生は 10 人未満の少人数でしたが、春期では収容人数ぎりぎりの人気あるこの授業も、受講者の雰囲気も違って、又展開も反応も変わっていたのだろうなと予想しました。それも見てみたかったなぁと思いました。

・ネット上の人格権を侵害するような投稿について考え、自分が加害者にも被害者にもならないための予めの知識を得ることを目的としていました。。
　後学のためにと、ときどきコメント欄をのぞいてみますが、そもそも誤解したまま意見していたり、一方的だったり、場の雰囲気に同調しているだけだったりして、見るに堪えません。それでもたいへんな攻撃力を持つものになる可能性があるので、デジタルネィティブの学生たちは基本的に学んでおかなければならないテーマだと思います。
　学生自身に切迫したものがないのかもしれませんが、考えて自分の意見を作ること、発言することの活動をどこかに入れてはどうでしょうか。
　蛇足ですが、重要だと思ったこと　思ったことをすぐ口に出さずにはおれない学生が受講していましたが、先生は彼の発言も取り入れたりしながら授業を進められていたので、場のアクセントにもなり、彼も満足気に参加できていたと思いました。
　先生は、関連のありそうな資料・番組をストックされているそうです。日ごろの準備がものを言います。

・いつも先生の授業で納得させられるのは、まず学生への投げかけが穏やかであること。静かに指示をされて学生はその意味をじっくりと考える。この授業でも 4 人の受講生が自分の考えを忌憚なく述べていました。これは間違っているのかな、的が外れているのでは？と思う受講生の気持ちを払しょくさせるが如く、先生は一人ひとりを認めていました。学生同士も体験を揶揄することなく、人の考えや意見をリスペクトして伸び伸びと述べていました。これぞ大学の講義と感服いたしました。
　時間いっぱいの中、切れの良い授業の流れやテンポで考えさせるという方法には学生はとても集中していました。有限である板書を活かしています。
　いつも思うことなのですが、先生は時間の展開予定をしっかりと立てておられること。これは教員全ての誰しもが気を付けることですが、私は少しの時間オーバーを許してしまうことで失敗することがあります。これが先生にはないです。

・先生の相談対応経験をモチーフに設定された事例だったため、援助者が「あれ？」と引っ掛からないといけないポイントがリアリティのある形でいくつも盛り込まれていました。だからこそ受講生も関心を持って考えていたのだと思います。
　ポイントをまとめたパワーポイントはシンプル、ワーク進行の指示もシンプル、それでもルールを学生が自然と理解して取り組むのは以前からすごいなと感じています。グループワークでは各グループにミニホワイトボードを持たせ、そこにグループ意見を記入し、発表時に全体に示しながら発表します。有効な「武器」ですね。ただ、学生のグループ発表では「介入的」「即時解決的」な勇ましい意見も出てきたりし

て、ＤＶ事案に対する援助者の「辛抱強さ」をもう少し分かってほしいと個人的には思いました。
「ジェンダーはＤＶと関連している」という先生のお話は大変重要な示唆だと考えます。また、「好きなのになんだか辛い、怖い」と感じる時は相談を、というのは援助者としても当事者としても分かりやすいメッセージだと感じました。

・母親のインタビューの朗読が、実際に母親から聞いているような思いを体験できるものでした。自分で、聴き取りされたものだからでしょう。そして、自然な関西アクセントで話されていたからでしょう。きわめて自然に響いてきました。「自閉症の何々君じゃなくって、まず先に何々君がくるんやなぁって思って・・・」以下、特に心に残りました。
ビデオについては改めて、教材として「授業内容とつながって、授業を深め、心を揺さぶれる」ものだなぁ、そうでないといけないなぁ、ただ何か関連してるだけとか、いわんや時間を埋めてお茶を濁すものであってはいけないなぁ、と思いました。学生が喜んでいたら、授業との関連が無くてもいいわけではありません。「息抜き」であっていいわけがありません。
先生の選ぶ映像は、いつも授業の内容を深めて興味を引く、そして「新しいもの」です。それに感心しました。自分で選び何度も見たはずの内容に、取り上げた先生自身が改めて感動できるような作品でした。初めて見る人の心に強く訴え、さらなる深い学びの意欲を引き出すものでした。

・“今日のメニュー”は・・・という先生の軽快な、なおかつ大変わかりやすい解説や声掛けの数々、そして、英語と日本語をミックスした質問を通して、学生を授業に引き込む先生の声掛けや技の数々、大変勉強させていただきました。
また小学校での授業を想定した発問の仕方や、実習で直面するテーマへの対応方法、中学生が質問しそうな内容を想定した先生の問いかけ等、実習や実際の現場で生かせる実践的な内容を、ぎゅっと組み込んでおられ、時間が過ぎるのがあっという間に感じました。
発表担当となった学生も、堂々として分かりやすく、なおかつ習得した英語力や発表のスキルを発揮して発表する様子で、先生の英語の指導のすごさを改めて実感いたしました。また先生の授業の進め方や、学生のオリジナルなアイディアを引き出すような声掛けやテクニック、是非とも学ばせて頂きたいと強く感じました。
さらに学生が自分の発表する様子をスマホで撮影するという内容も、学生が自分の発表の様子を改めて振り返ることができる、様子や課題について気づくことができる方法であるなぁと、強く感じました。

２月９日には、まとめられた感想・コメント集を資料として、授業見学についてのふりかえりを行った。

３．ＳＤ研修

今年度のＳＤ研修は、コロナ禍の影響で組織的な研修を実施できなかった。

お　わ　り　に

今年は、コロナ禍においての学生の学びと安全を両立させるという取り組みも２年目となりました。春期の前半は遠隔授業の実施となりましたが、昨年度に「遠隔授業研修」としてリモートによる効果的な授業展開の多様な方法や効果的な展開について理解を共有しておいた効果が見られました。ポートフォリオを通じての課題配信が中心でなく、ZOOM でのライブ授業や PowerPoint 録画配信などそれぞれの授業の特性に合った内容への工夫が多くの授業でなされました。

春期の後半には、対面授業に移行できました。速やかに実施できたのは、本学が小規模大学の特性を生かして以前から授業やゼミを少人数で展開してきたことが大きく寄与しました。これは、学生全体の期待に応えるものであり、特に大学での授業体験や新入学の仲間とのかかわりを求めていた１回生の願いをかなえるものでした。昨年度から続く、消毒液の学内いたるところへの配置や、教室やフロアの座席で横との距離を空けて座るための遮蔽物設置など、事務室や保健センターの工夫と努力がそれを支えてくれました。

秋期は、ほぼすべての授業を対面で行い、英語スピーチコンテストなどの行事も昨年度の経験を生かしながら大学で行えました。大学祭は、各研究室で作成した動画の配信や、常磐会短期大学との多様な合同企画を実施しました。ただ、秋期は最終の時期に遠隔授業となったため、授業アンケートは実施できませんでした。

キャンパスライフアンケートはこれまでの用紙への記入式をオンラインに変更して行いました。そこでは、施設・設備面の充実や利便性向上に関わる事務職員の学びの環境づくりへの継続的な努力とともに、教職員の「親身できめ細やかな指導・支援」もが評価されています。また、学生の進路希望の実現を後押しする各教員の努力もあり、本年度も公立幼稚園・保育園をめざした学生のほとんどが合格を勝ち得ました。

今後も引き続きコロナ感染防止への対策が求められる中でも、本学が求められている課題を直視しながら、充実した研究活動と深く実践的な学びを提供できる教育活動を実現することをめざします。そのために、この自己点検・評価の取り組みが大きな力となるものと考えます。

最後になりましたが、本誌発刊に際し、各部署の責任者の方々、研究部の皆さんのご尽力に対し感謝を申し上げます。

研究部長　　佐谷　力

＜編集委員（敬称略）＞

田端矢一郎	美濃　守隆	吉田　健
昇　慶一	笠川　武史	加藤　達雄
アレックス・M・林	岡（宮薗）美佳	菅野　真里
帆足　光正	佐谷　力	

令和３年度　教育研究活動の現状と課題
－自己点検・評価　報告書－
令和４年４月発行

編集　学校法人常磐会学園　常磐会学園大学
発行　学校法人常磐会学園　常磐会学園大学
〒547-0021
大阪市平野区喜連東１丁目４番12号
電話　06-4302-8880（代表）

印刷　名鉄局印刷株式会社
〒450-0003
名古屋市中村区名駅南3-13-23
電話　052-561-3271